平成31年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　　　府立北野高等学校

自己評価の基準	A･･･計画以上 B･･･おおむね計画通り C･･･計画以下	評価審議会評価の基準	AAA ･･･きわめて高い成果をあげている AA ･･･高い成果をあげている A ･･･成果をあげている B ･･･取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ･･･取組の見直しが必要である

資料2 - 1

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価審議会の評価 評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用力・ICT活用力	継続	校内外成果発表会の実施	校内外成果発表会の発表本数	校内645 校外24	校内610 校外24	校内588 校外23	校内 ●課題研究 中間発表 口頭（プレゼン）発表23、ポスター発表67 最終発表 口頭（プレゼン)発表 70 ポスター発表67 ●学校設定科目「国際情報」理科発表160 統計発表 172 ●学内留学25(100人) ●即興型英語ディベート予選会 4(9人) 校外 ●大阪サイエンスデイ1（3人） ●科学の甲子園1（8人） ●即興型英語ディベート関西大会２（8人） ●第66回国際理解国際協力のための高校生の主張コンクール弁論大会1（1人） ●全国高校生フォーラム1（3人） ●即興型英語ディベート全国大会予選・決勝 2（3人） ●大教大附属平野高校招待発表1（5人） ●ＧＬＨＳ１０校合同発表会1（3人） ●ハワイ研修プレゼン3 ●探究甲子園1（5人） ●霊長類学会発表 1（5人） ●シンガポール研修プレゼン8	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	92.0%	92.0%	96.70%	「国際情報」のアンケート「プレゼンファイルの作成技能が修得できた」、「プレゼン発表の技能が向上した」、「クラス全体としてプレゼンレベルが向上した」等に対する肯定的回答の平均 94.5% 及び学内留学アンケート「以前より人前で発表することに抵抗が少なくなった」の肯定的回答98.9%との平均96.7%	A	継続	「国際情報」、学内留学、デザイン思考などのアンケートにおける生徒の肯定度は非常に高い。今年度は、WWＬの取組みとして、グローバルリーダー養成講座やデザイン思考といった取組みをされたが、改善すべきところや充実すべきところを見極めて、さらなる充実を期待したい。	AA
			②英語運用能力	継続	学内留学講座の実施	参加者数	101人	100人	100人	教育学コース20人 ビジネス学コース 20人 心理学コース 20人 天文学コース 20人 環境学コース 20人 ＊100人定員としてネイティブ一人あたりの指導効果の向上をめざした。応募数は181人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	94.6%	95.0%	98.4%	学内留学アンケート「以前より英語でのコミュニケーションに抵抗がなくなった」及び「以前より英語によるコミュニケーション能力を高めたいと思うようになった」の肯定率の平均	A	継続		
			③英語運用能力	充実	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加者数	593人	600人	1,129人	●Stanford University [デザイン思考」Tamara Carleton氏 4月18日 生徒292人 9月20日 生徒１１人 ●外務省出前授業「ＥＵがあなたの学校にやってくる（11月8日）」生徒110人、保護者 4人 ●即興型ディベートデモンストレーション 1年生320人 ●英語上級セミナーの開講 生徒 53人 ●グローバルリーダー養成 英語集中講座 19人 ●国立天文台准教授 アルバロゴンザレス氏による英語による講演 1年320人	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	95.0%	95.0%	88.5%	デザイン思考 肯定評価アンケート ①96.4 ②96.8 平均96.6% EU 80.4% 上記2つの平均 88.5%	C	充実		
		Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	充実	異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計 （一日交流は含まない）	116人	115人	107人	渡航 ●ハワイ 12人 ●シンガポール 45人 ●カナダ 1人 （トビタテ） ●アメリカ1人 (トビタテ) ＋4人 ●オーストラリア 20人 ●台湾 18 人 受入 ●シアトル 4人 ●インド1人（7か月） ●ミャンマー1人（7か月） ＊一日交流の建国高級中学は除く。	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	100.0%	98.0%	100%	ハワイ研修事後アンケート満足度 100% シンガポール事後アンケート満足度 100%	B	継続	伝統の縄とびや長距離マラソンなどが試練を乗り越える喜びを味わう機会となっており、あきらめない心を育んでいると考えられる。 部活動の総顧問制などは、道徳教育の点からも継承してもらいたい。	A
			⑤共感力・協調性	継続	宿泊研修におけるチームビルディング講座の実施	参加者数	1年生全員	1年生全員	320人	宿泊研修（4月25日・26日）でチームビルディング研修の実施	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	99.7%	98.0%	99.7%	全体として とてもよかった 86.2% まあまあよかった13.5%	B	継続		
			⑥バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	部活動の充実	部活動の加入率	94.5%	95.0%	94.6%	加入率 1年 94.7% 2年 94.4% 平均 94.6% 加入人数 運動部 679人 文化部 407人 合計 1038人 延べ加入率 108.6%	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	88.0%	90.0%	88.2%	生活アンケート「部（同好会）活動を総合的にどう評価しますか」の肯定率 （3学年の肯定的回答数を有効回答数で割る）	B	継続		
		Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志を育む	継続	各界リーダーによる講演会の実施	講演の回数及び講座数	19回 47講座	19回 47講座	40回 65講座	●「デザイン思考」（放課後）2回 (292人＋11人) ●「知的世界への冒険」 （１年対象） 1回×7種類 ●「キャリアガイダンス」（１年対象） 1回 ×８種類 ●「学部学科ガイダンス」（２年対象） 1回×12種類 ●課題研究講座での指導 （2年対象） 英語 24講座、社会 1講座、理科 20講座 デザイン思考20講座 ●課題研究講演会 （1年対象）3回 ●各種講演会「防災を考える（全学年対象・教職員対象）2回（野尻紀恵氏） ●税についての講演（東淀川税務署）1回（15人） ●「今ここにある『貧困』」１回（川口加奈氏） ●「Leave it! Love it! Live it!」１回（大川郁子氏） ●「EUがあなたの学校へやってくる」 1回 ●「めざすべき社会を考える」大阪大学 堂目氏１回 ● 吉野彰先生 特別講演 1回	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	93.0%	90.0%	97.2%	知的世界の冒険 2限 97% キャリアガイダンス満足度 99% 学部学科ガイダンス 肯定評価 95.5% 上記3つの平均97.2%	A	継続	各界のリーダーによる講演会は充実しており、アンケートにおいても非常に高い肯定評価である。本年度はノーベル賞を受賞した卒業生の吉野彰氏による講演も実現し、生徒にとっても強く印象に残ったと考える。 学部学科ガイダンスのアンケートでの肯定率は、９５%を上回っているが、前年度実績値、目標値から下がっており、要因を分析し、対応されたい。 高大連携の取組みにおいて、アンケートでの肯定率については、前年度より向上しており、目標達成に向けてさらなる充実を期待する。	AA
			⑧キャリア教育の推進	継続	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100%	100%	100%	学部学科ガイダンス	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	97.3%	98.0%	95.5%	学部学科ガイダンスの肯定率	B	継続		
			⑨高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	567人	600人	723人	京都大学 ●１年宿泊研修京大ツアー 320人 ●京大サマースクール 1人 ●京大キャンパスガイド160人 大阪大学 ●阪大キャンパスツアー 137人 ●阪大医学部早期医療体験プログラム 1人 ●「AIと人がつくる未来社会」14人 ●「阪大ＳＥＥＤＳプログラム」 1人、 ●GLHS10校合同発表会 １２人 ●「人工臓器体験セミナー」7人 大阪教育大学 ●大教大キャンパスガイド 2 人、 奈良県立医大 ●シミュレーションセンター研修 11人 大阪工業大学 ●「ＡＩ時代に活躍するためには」 石丸翔也氏 藤野沙耶氏 岩永二郎氏 8月31日 生徒17人 その他大学 ●「きみが外科医になる日」セミナー（順天堂大学） 7人 府教育庁主催等●「科学の甲子園」8人 ●「京都・大阪数学コンテスト」10人 ●「数学オリンピック」5 人 ●「全国物理コンテスト」10人	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	89.7%	95.0%	93.5%	阪大キャンパスツアー98.8%、京大キャンパスガイド82%、1年宿泊研修99.7%の肯定率の平均	B	継続		
		Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩授業力向上	継続	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	96.7%	97%	96.7%	見学 58人（96.7%）、公開 58人（96.7%）	B	授業アンケートによる生徒の肯定回答率	87.8%	88.0%	90.3%	学校教育自己診断（生徒対象）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定率	A	継続	教員が異動になった場合でも蓄積された知を継承する仕組みづくりが急務であるが、授業相互参観はその仕掛けの一つと考える。 校外からの見学者が多いことが北野高校の特徴であるので、教員の知の拠点になるべく、さらに充実してもらいたい。	A
			⑪若手教員の指導力向上	継続	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	25回	25回	15回	校内 公開研究授業等 延べ8 回 内訳 初任者 3人×1回、2年目 1人×1回、10年研2人×1回（校内研修）その他1回 行って究1回 校外 研究授業参加 延べ 7回12人 内訳 行って究 箕面1(3)、渋谷学園渋谷1(1)、開成1(1)、天王寺1(4) 春日丘1(1) 学び舎2(2) （※「行って究」は第１ブロックの初任者対象の授業研修の場）	C	当該アンケートにおける参加教員の肯定回答率	100%	100%	100%	聞き取り調査	A	継続		
			⑫授業力・指導力の向上	継続	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	666人	700人	860人	公開授業（保護者参加数） 768 人 内訳：前期（6月12･13･14日） 393人、後期（11月5･6･7日）375 人 公開研究授業 他校教員等参加数 92人（うち私学33名） （その他学校見学に来校した学校 熊本県立熊本高校 、山口県立徳山高校 、千葉県立佐原高校他 、宮崎県立宮崎西、東京都立南多摩中等教育学校、 岡山県立朝日高校、東京都立足立西高校、福岡県立八幡高校 、立命館大学、茨城県立土浦第一、富山県立高岡高校、京都市立堀川高校、京都市教育委員会 香川県立高松高校 兵庫県立国際高等学校）	A	当該アンケートにおける参加者の肯定回答率	95.0%	95.0%	98.5%	保護者の公開授業後アンケートにおける肯定率 春季98.6% 秋季98.4%	A	継続		
	共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合および得点率の平均はともに目標値には届かなかったものの、高い割合を維持している。 目標値との差について検証し、さらなる向上につなげてもらいたい。	AAA
			⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	96.2%	97%	95.8%		B	継続		
			⑮大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における得点率の平均	82.6%	82%	81.8%		B	継続		
		Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	2件	2件	1件	霊長類京都大学プリマーテス１（5人）	C	継続	WWLに新たに指定され、従来までの課題研究に新たな要素が付け加わることで、一層の飛躍が期待できる。 各教員が持つ引き出しの多さが、生徒をさらなる高みへと引き上げていると考える。	AA
			⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数（「国レベル」には全国大会出場者を含む）①府レベル②国レベル	①2人 ②8人	①5人 ②5人	①6人 ②9人	全国物理コンテスト 金賞１銅賞１ 全国英作文コンテスト 入賞1 全国ディベートベスト８ 1チーム（3人） 化学グランプリ2019 上位10% 近畿支部支部長賞１ 第６回京都・大阪数学コンテスト優秀賞２ 科学の甲子園3位	A	継続		
		Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験（TOEFLiBTチャレンジ含む）									英語外部検定試験の受験 ①受験者数 ②取得スコア（級） (1)英検２級以上相当 (2)英検準１級相当	①424 ②(1)325 (2)119	①360 ②(1)330 (2)120	①400 ②(1)334 (2)178	①GTEC 297、英検95、TOEFL iBT 5、TOEIC公開 3 ②(1)英検２級以上相当 英検29、GTEC 297、TOEFLiBT5、TOEIC公開3、(2)準１級以上相当 英検10、GTEC163、TOEFLiBT5	A	継続	英語に関して多くの取組みを実践していることで、生徒の英語運用意識を育成できており、それが外部試験の結果にも現れていると考える。	AA
		Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	174人	200人	220人		A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、昨年度実績及び目標値を大きく上回っている。また、国公立大学への進学者数は目標値に届かなかったものの、京都大学への進学者数が全国１位となるなど、極めて高い実績である。 この成果に至った要因を分析し、さらなる飛躍を期待する。	AAA
			⑳進学実績									難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数	133人	150人	164人	東大 11人（現9 浪2） 京大 100 人（現72 浪28） 阪大 53人（現36 浪17）	A	継続		
			㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	183人	200人	182人		B	継続		
			㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	0人	1人	（1）人	予定者（9月入学のため）	B	継続		

総合評価		
総合評価	WWＬの事業として、グローバルリーダー養成講座やデザイン思考といった取組みを進めており、社会貢献について考えさせたり、アジアからの留学生を受け入れるなど、今後の着実な展開が期待される。本年度はノーベル賞を受賞した卒業生の吉野彰氏による講演も実現し、生徒にとっても学びのモチベーションが高まったことであろう。教員間のコミュニケーションも豊かになったことで、北野高校の可能性がさらに拓けており、今後は学習指導面において観点別学習評価などについてもリードしてもらいたい。進学実績も安定しており、大阪府のみならず日本を代表する公立校高校として、さらなる躍進に努められたい。	AA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　　府立豊中高等学校

自己評価の基準	A…計画以上 B…おおむね計画通り C…計画以下	評価審議会評価の基準	AAA …きわめて優れた成果をあげている AA …優れた成果をあげている A …成果をあげている B …取り組んでいるが工夫改善の余地がある C …取組の見直しが必要である

資料2-4

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成 / 学校独自の取組	Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用力・ICT活用力	充実	授業成果発表会の実施 （豊高プレゼンテーション） ①SSH課題研究成果発表会 ②SGH課題研究成果発表会	校内成果発表会の発表件数	SSH口頭発表１本、ポスター発表27本 SGH口頭発表４本、ポスター発表23本	SSH口頭発表１本、ポスター発表50本 SGH口頭発表４本、ポスター発表35本	SSH口頭発表１本、ポスター発表59本 SGH口頭発表4本、ポスター発表33本 能勢分校3本	「豊高プレゼンテーション」における、 海外研修・SSH課題研究・SGH課題研究の代表口頭発表及びポスター発表	A	プレゼンテーション能力が向上したと 回答した発表生徒の割合	96%	95%	85%	事後アンケートで、「わかりやすく表現する力が高まったか」 に対して、肯定的回答「高まった」「やや高まった」の割合	B	継続	SSHとSGHの取組みに、本年度はWWLという側面も加わり、充実した課題研究が実施されている。１年で情報リテラシーの学習や英語プレゼンテーションを通して学びの基盤を構築し、２年生では論文作成の中で論理矛盾に気付かせ、３年生でブラッシュアップする流れが構築できている。 SSH再指定となり、今後、豊中市との連携によりどのように発展するのか期待している。 一方、「豊高プレゼンテーション」の事後アンケート結果が前年度実績および目標値から下回っていることについて、要因を分析し、改善を行ってもらいたい。 グローバルスタディーズは、今後対象を広げていくとのことだが、卓越性が維持できるような工夫をお願いしたい。	AA
		②英語運用能力 科学的リテラシー 言語活用力	継続	各種コンテスト （英語ディベート・ 科学の甲子園等）及び 豊高グローバルスタディーズ への積極的参加	①全国大会参加数 ②府内及び近畿（西日本）等 地方大会参加数 ③豊高グローバルスタディーズ 参加回数	① 9回 ② 1回 ③ 125回	① 10回 ② 3回 ③ 120回	①7回 ②4回 ③121回	①　SSH生徒研究発表会（8月　1組） JICA「国際協力中学生（作文）」（8月　360名） 高校生ビジネスグランプリ（9月　2組） SGH全国高校生フォーラム（12月　1組） 英語即興型ディベート大会（1月　1組） 高校生天文活動発表会（7月　1組） 大教大作文コンクール（11月） ②　大阪サイエンスデイ（10月　7組）・（12月　1組） 科学の甲子園（10月　大阪予選　4位） GLHS合同発表会 生徒生物研究発表会（11月） ③　主に1～2年生 火・木曜日放課後、即興型英語ディベートを行っている。 月・水・金は、ディベート練習・読書会等を行っている。	A	英語運用能力等に自信がついたと 回答した参加生徒の割合	96%	95%	93%	・個々の大会に出場した生徒、 および豊高グローバルスタディーズに参加した全生徒が、 「英語運用能力・プレゼンテーション能力に自信がついた」 と回答する割合。	B	再編		
		③英語運用能力	継続	英語リスニングセミナー	講習参加者数	100人	250人	314人	今年度より、土曜講習にて実施	A	英語運用能力に自信がついたと 回答した参加生徒の割合	100%	100%	92%	リスニングセミナー参加者のうち、 「英語運用能力に自信がついた」と回答した生徒の割合。	B	継続		
	Ⅱ．豊かな感性と、 たくましく生きるための 健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④違いを認め共に生きる力	継続	英国語学研修の実施	研修参加者数	40名	40名	50名	7月20日～8月1日（13日間） イギリス・バースにて、ＥＬＡＣ（語学学校）主催の インターナショナルプログラムに参加、 ヨーロッパ各国から訪れた同年代の若者と諸活動を体験。	A	参加者のGlobal Assessment （語学力・主体性・異文化に対する 日本人のアイデンティティー） 16観点中15項目の平均伸び（新規）	－	1.5向上	1.95向上	要素①語学等 （積極性・対応力・発信力・論理的思考力・人脈形成力）+2.2 要素②主体性等 （セルフマネジメント・批判的思考力・メンタルタフネス・ リーダーシップ・探究心やり抜く力）+2.1 要素③アイデンティティー等 （アイデンティティー・日本というアイデンティティー・ 異文化適応力・偏見バイアスのコントロール・国際教養）+1.7	A	継続	１年生全員が大阪大学留学生に対して、ポスター発表するとともに、グループに分かれて共に文化交流を行う取組みは、学校の特徴の一つとなっており、英語運用力・課題研究の面でも効果的であると考える。 イスラム圏フィールドワークについてもWWL事業を活用するなど、新しい要素を加えながら実施しており、評価できる。	A
		⑤協調性・共感力	新規	イスラーム文化圏 フィールドワークの実施	参加者数	22名	20名	15名	文科課題研究で、研究の一環として、フィールドワークを実施	B	参加を通して、異文化の人と コミュニケーションをとったり、 意見を発表したりする力が高まった と回答した参加生徒の割合。（新規）	－	80%	100%	「イスラムフィールドワーク」に参加した15名のうち 「異文化の人とコミュニケーションをとったり、 意見を発表したりする力が高まった」と回答した割合。	A	再編		
		⑥違いを認め共に生きる力・ 紛争を解決する力	継続	大阪大学等の留学生との 交流会の実施	参加者数	１年生 360人	１年生 360人	１年生 360人	1年生と阪大留学生（約50名）との小グループでの英語による交流及び講演（1/17） ①研究交流…SS課題研究基礎で取り組んでいる研究について、 日頃から学んでいる英語を実際に活用し、プレゼンテーションを実施。 ②文化交流…交流会の前半は留学生に自国の文化や将来の夢について語ってもらい、 後半は紹介したい日本文化を英語でプレゼンテーション及び留学生との質疑応答を実施。	A	異文化について 理解を深めることができた と回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	交流会に参加した生徒のうち、 「異文化について理解を深めることができた」 と回答した参加生徒の割合	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、 進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志をはぐくむ・ 規範意識	継続	地域交流活動、 ボランティア活動の推進	活動人数	2年生 360人	2年生 360人	2年生 360人	クラブ単位や個人等で異世代交流やボランティア活動に、 自主的に取り組む「志学」（成果・ふりかえりのレポート提出）を実施	A	ボランティア活動に参加した 生徒の割合	100%	100%	100%	2学年全員が、自主的に地域でのボランティア活動や異世代交流を行う「志学」が、本校における教育のひとつの柱として完全に定着し、 生徒もその取組のなかで主体的に社会貢献意欲を高めるように計画する。 地域からも認められる活動になり、 「こころの再生」府民運動の推進にも貢献した。	A	継続	２年生全員が行うボランティア活動の取組みは完全に定着しており、社会貢献意識の涵養に有効であると考える。 ＳＳＳやＳＧＳなどの取組みや各種の講演会も、改善しながら実施していることは評価できる。 今後も、生徒のニーズも見極めながら充実したものとなるよう改善を続けてもらいたい。	A
		⑧高い志をはぐくむ	継続	土曜セミナー等の実施	SSS（スーパーサイエンスセミナー） SGS（スーパーグローバルセミナー） 英語ディベートセミナー等の 合計実施回数	20回	18回	18回	①SSS　6回 ②SGS　6回 ③ディベートセミナー　6回	A	授業以外の体験ができたと 回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	参加生徒のうち 「授業以外の専門性と教養を高める体験ができた」 と回答する割合。	A	継続		
		⑨高い志をはぐくむ	継続	各界で活躍している方による 講演会の実施	講演会の回数	28回	30回	26回	①学校・学年行事　各分野の卒業生（14名）による講演会 大学教授による講演会4回 阪大との連携による講演会 WWLテーマ別（3名）講演会 ②課題研究　文科：6回　理科：2回 ③スーパーサイエンスセミナー（SSS）　2回 ④スーパーグローバルセミナー（SGS）　6回 ⑤卒業生による講演：京都大学教員・学生（2回）大阪大学工学部教員（1回） 回数は目標を達成できなかったが、希望別・分野別少人数での講演等、 招聘講師延べ数は昨年を上回った。	B	目標を高くもって頑張る と回答した参加生徒の割合	96%	95%	96%	・参加生徒が「高い志を持ち、目標に向かって頑張る」と回答する割合。	A	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩授業力向上	継続	保護者等への授業公開実施	保護者等の参加人数	462人	500人	560人	第1回　4/19（金）午前：355人（1年：161　2年：108人　3年：86人） 第2回　10/19（土）午前：205人（1年：126　2年：79人　3年：－） 今年度より、保護者向け一斉メール配信等で周知のため、参加者増加	A	参加した保護者の 肯定的な回答の割合	95%	95%	96%	1回目　96%　2回目　97% 「授業の内容・進度」及び 「学習する集団としての学校の雰囲気」についての肯定的意見の割合	A	継続	液晶プロジェクタの設置に向けて、プロジェクトチームが機種や設置場所を協議したり、指導方法について大学教授と連携するなど、教員が主体的に授業改善に取り組む姿勢がうかがえる。 課題研究を評価する心のルーブリックは豊中高校の財産の一つであり、是非多くの学校で使用できるように、作り方のポイントなどを普及をしてもらいたい。	AA
		⑪教科指導力向上	継続	外部講師による 教科指導力向上研修と 教科会議	学校教育自己診断における 次の項目の肯定的評価９０%以上 1．授業内容は自分の学習や 発達に役立っている。 2．教材や指導方法に工夫が 感じられる授業がある。 3．授業で自分の考えをまとめ たり、発表する機会がある。	1．91% 2．84% 3．73%	１～３の 項目の 肯定的評価 90% 以上	1．91% 2．88% 3．86%	「生徒たちが希望する大学進学への受験指導」と「生徒が能動的に学ぶ学習・授業」 の両方を充実させる「豊高型アクティブラーニング」推進の取組みを進めている。 ①校長・教頭による授業観察と指導・助言。４月下旬～５月上旬 **②教員相互による授業見学の実施。**6/10～6/14 ③外部講師による教員研修「新学習指導要領に向けて～教科を横断した学びとは～」を実施(7/19) ④教員の自主的な授業向上研究グループによる勉強会の実施 ⑤授業アンケート結果を受け個人内、教科内振り返り ⑥HR教室のICT化計画に向け「ICT活用勉強会」の実施 ⑥「学校教育自己診断（教員向け）」を11月上旬実施、12月データ集約。	A	経験の浅い教員のアンケート結果で、 生徒指導力が向上したと回答した割合	100%	100%	100%	経験の浅い教員が、管理職による授業観察及び指導助言、 教員相互の授業見学、および授業力向上研修・研究協議の 機会を通じて、「授業力及び生徒指導が向上した」と回答する割合。	A	継続		
		⑫課題研究力向上	継続	SSH・SGH課題研究における 評価法の確立	・心のルーブリック評価 ・豊高型グローバルマインドセット 評価のルーブリック	・SSH 3.6 ・SGH 3.6	平均3.5以上	・SSH 3.8 ・SGH 3.4	課題研究におけるルーブリック評価を実施	A	課題研究のルーブリック評価で、 課題研究の質が高まった と回答する生徒の割合	87%	85%	86%	課題研究を行う2年生文理学科の生徒が 「ルーブリック評価で課題研究の質が高まった」と回答する割合。	A	継続		
共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験５教科７科目受験者の割合は、わずかに目標値に届かなかったものの、前年度実績を上回っている。 難易度が上がったとはいえ、得点率８割以上の者の割合が目標値に届かなかったことについて、分析を行い、次年度以降に生かしてもらいたい。	A
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 ５教科７科目受験者の割合	79.2%	80%	79.3%	大学入試センター試験 ５教科７科目志願者の割合	B	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									５教科７科目受験者における 得点率８割以上の者の割合	36.7%	30.0%	26.4%	５教科７科目受験者における得点率８割以上の者の割合	B	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									ルーブリック評価による評価点	7.2点	平均８点 (10点満点)	8.0点	「心のルーブリック」（SSH）、 「グローバルマインドセットのルーブリック」（SGH）での平均点	A	継続	SSHとSGH両方の指定校である強みを生かした多様性・質の高さが強みである。また、教員が教えすぎないことや卒業生をうまく巻き込んでいることも評価できる。 コンクール・コンテスト等については、より多く生徒が参加するような仕掛けが必要であると考える。	B
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国規模の コンクール・コンテスト等の入賞者数	全国レベル ６グループ 世界レベル １グループ	全国レベル ５グループ	全国レベル ３グループ	JICA「国際協力中学生（作文）」②（8月　国内機関賞　学校賞） 高校生ビジネスグランプリ ②（ベスト20　ベスト１００） 大教大作文コンクール（11月）	B	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									ＧＴＥＣ For Student スコア （１，２年）	１２８０点中 ９６０点以上 が１８０名	１２８０点中 ９６０点以上 が１６０名	１２８０点中 ９６０点以上 が１３６名	TOEFLiBTチャレンジテストの結果 ＧＴＥＣ For Studentの結果	B	再編	４技能統合型の授業、希望者対象のグローバルスタディーズの実施、留学生との交流など、豊富な取組みが英語力向上に結び付いていると考えられる。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学 （タイプＡトップ型）および グローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型） およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	１２０人	１１０名	１２３名		A	継続	スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、前年度実績および目標値を上回っており、大いに評価できる。一方、国公立大学現役進学者数が前年度実績および目標値を下回っており、要因を分析すべきである。 また、進路希望達成率については、前年度実績および目標値と大きく乖離があることから、進路指導部を中心に、必要な対策・支援を検討頂きたい。	AAA
		⑳進学実績									進路希望達成率 （年度当初の希望の達成率）	41%	40%	22.8%		B	充実		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	１５８名	１４５名	１４１名		B	継続		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	1名	2名	２名		A	継続		

総合評価	様々な取組みを通じて「豊高型アクティブラーニング」をめざし、進路実績を目標とするだけではなく、「形には表れない、生涯使える力」を身に付けさせようとしていることは特に評価できる。地域とのつながりの提案など社会的資源の活用を視野に入れながら、周年事業や新教育課程の編成など中期目標を明確にするとともに、教員の育成にも力を入れている。GLHSでとりわけ伸長した学校といえよう。今後のさらなる展開に期待する。	AA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　府立茨木高等学校

自己評価の基準	A･･･計画以上 B･･･おおむね計画通り C･･･計画以下	評価審議会評価の基準	AAA ･･･きわめて高い成果をあげている AA ･･･高い成果をあげている A ･･･成果をあげている B ･･･取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ･･･取組の見直しが必要である

資料2-２

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価審議会の評価 評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組 Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	6回 ／講座	6回 ／講座	8回 ／講座	目標を達成	A	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	82%	80%	85%	目標を達成	A	継続	さまざまな科目でプレゼンテーションやディベートが行われており、学校として一貫して生徒を育成されており評価できる。 図書館蔵書貸し出し冊数も前年度実績および目標値を達成しており、評価できる。	A
		②言語活用力・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A：「保健」の授業での　プレゼンテーション B：「1年行事委員会活動」での　生徒間のプレゼンテーション	A：1回 ／生徒 B：11回	A：1回 ／生徒 B：10回	A：1回 ／生徒 B：10回	A：1年「保健」の授業でプレゼンテーションを実施。2年「保健」においては「生涯を通じる健康」の分野でディベートを実施し、その中で最低１回は発言する機会を持たせた。 B：委員会活動は10回実施。	B	【アンケートによる生徒の評価】 A：授業を通じて自らの成長を実感できた B：1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	A：92% B：88%	90%	A：85%	A：目標に近い値を達成 B：臨時休業措置のためアンケート未実施	B	継続		
		③基礎学力の向上	継続	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書の充実	図書館の開館日数の確保	209日	210日	204日	目標に近い値を達成 臨時休校措置のため、3月の開館ができなかった	B	生徒に対する図書館蔵書の貸し出し冊数 及び、生徒一人あたりの図書購入冊数	貸出冊数 3002冊 購入一人 年間2.2冊	貸出冊数 3000冊 購入一人 年間2冊	貸出冊数 3024冊 購入一人 年間2.1冊	目標を達成	B	継続		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④共感力・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員を中心とした多文化共生・多様性受容の取り組み	実施回数	7回/3年 7回/2年 7回/1年	年5回/学年	8回/3年 14回/2年 8回/1年	3年：「在日外国人について考える」 2年：「環境問題と人権」 1年：「命について考えよう」	A	【アンケートによる生徒の評価】 様々な取り組みを通じて、深く自国や自分自身を見つめ直すことができた	3年：98% 2年：97% 1年：95%	90%	3年：98% 2年：97% 1年：97%	平均:97%　目標を大きく上回った	A	継続	生徒自身が学校をデザインできる領域が広く、生徒会活動が活発であり、そういった素地が生徒たちにタフさを育んでいると考えれ大変評価できる。 リーダー養成研修Ⅰにおいて講師自らが貴重な経験ととらえていることが成功の要因と考えられ、今後も継続してもらいたい。	AA
		⑤課題発見力・紛争解決力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	開催回数	36回	25回	49回	生徒議会：19回 各種委員会：30回	A	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事は充実した内容で実施され、工夫されている	91%	90%	92%	目標を達成	A	継続		
		⑥健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ（クラブサポート事業）の実施	実施回数	11回	10回	11回	11回実施 参加生徒のべ830名	B	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を、今後のクラブ活動において有効活用できる	100%	90%	100%	目標を達成	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志・規範意識をはぐくむ	再編	リーダー研修Ⅰ（リーダーとしての資質の獲得）の実施	実施回数	11回	10回	12回	12回実施 参加生徒のべ831名	B	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を、今後のクラブ活動において有効活用できる	87%	90%	97%	目標を大きく上回った	A	継続	リーダー研修Ⅰおよびボランティア活動については、前年度実績および目標値を大きく上回っている。その要因を分析し、次年度以降も継続できるよう企画されたい。 卒業生講座は、台風のため中止となったことは残念であったが、今後も魅力ある講座を設定できるようにしていただきたい。	AA
		⑧高い志・共生力をはぐくむ	充実	ボランティア活動の推進	地域等の活動への参加回数	19回	15回	50回	地域清掃、世界の飢餓の子どもを支援する活動、地域行事のスタッフ、小中学生へのスポーツ指導、学校説明会スタッフ、国際交流等	A	生徒ののべ参加人数	782名	1040名	1058名	現時点、地域清掃65名、世界の飢餓の子どもを支援する活動40名、地域行事のスタッフ145名、小中学生へのスポーツ指導249、学校説明会スタッフ195名、国際交流146名、その他218名	A	継続		
		⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	継続	卒業生講座・学問発見講座	実施講座数・実施回数	24講座 ／年2回	20講座 ／年2回	14講座 ／年1回	学問発見講座14講座 卒業生講座10講座は台風19号に伴う暴風警報発令により中止	B	【アンケートによる生徒の評価】 「卒業生講座・学問発見講座」は、自分にとって満足できる内容であった	96%	90%	学問発見講座 93%	学問発見講座93% 卒業生講座は台風19号に伴う暴風警報発令により中止	B	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩最先端の学びの研究	再編	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組み及び教科・科目の研究会等を通じて専門知識を深める取組み	A：大学等と連携した取組みの回数 B：教科・科目の研究会等への　参加回数	－	A：3回 B：9回	A：17回 B：54回	目標を大きく上回った	A	《授業アンケートによる生徒の評価》 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった	80%	85%	83%	目標に近い値を達成	B	継続	バディシステムも定着し、取組み目標も前年度実績・目標値を上回っている。また研究授業への参加人数が目標を大きく上回っており、ともに大変評価できる。 今後は他校の教員も参加できる研究授業にするなど、さらなる発展を期待する。	AA
		⑪授業力向上	継続	バディシステムを用いた互見授業の実施	教員1人あたり年2回以上の実施	2.2回/人	2.0回/人	2.5回/人	目標を達成	B	《授業アンケートによる生徒の評価》 信頼できる先生なので来年もこの先生の授業を受けたい（後輩に受けさせたい）	88%	88%	89%	目標を達成	B	継続		
		⑫授業力向上	継続	研究授業の実施	実施回数	9回	10回	21回	全教科で実施済み	A	研究授業の教員のべ参加人数	70名	60名	98名	目標を達成	A	継続		
共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は、前年度実績および目標値を上回っている。また、5教科7科目の受験者の得点率は、全国平均が下がったにもかかわらず目標値に達しており、評価できる。 引き続き、高い目標を設定したうえで、それを達成できるよう組織的な進路指導をお願いしたい。	AAA
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	85%	85%	87%	目標を達成	A	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率	79%	74%	76%	目標を達成	B	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									多様なテーマを扱う生徒の課題研究	22講座	22講座	23講座	目標を達成	A	継続	課題研究を深化させるには、自分で思考できる十分な時間が必要になる。新教育課程編成時には、十分な時間がとれるように検討してもらいたい。また、コンテストについては、参加者を増やす仕掛け作りも考えてもらいたい。	B
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国 essay contest等の入賞者数	６名	5名	5名	京都・大阪数学コンテスト ：奨励賞1名 第58回全国高等学校生徒英作文コンテスト：入選2名 第6回食withレシピ甲子園：優秀賞1名・奨励賞1名	B	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									①ＧＴＥＣスコアＡ2レベル以上の生徒（1年生）の割合 ②実用英語技能検定　2級以上保有者数（全学年）	－	①97% ②300名	①99% ②267名	①目標を達成した ②目標を達成できなかった	B	再編	ディベートを取り入れた英語授業を実践されており、単なる英語力ではなく、論理力や思考力も養えるように工夫されている。今後も、英語運用力を高める取組みを充実させてもらいたい。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	157名	130名	151名	目標を達成	B	継続	スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数、東大、京大、阪大、神大の合格者数は、前年度実績を下回ったものの、目標値を達成していることは評価できる。	AAA
		⑳進学実績									東大、京大、阪大、神大の合格者数	137名	120名	130名	目標を達成	B	継続		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	171名	－	161名		－			
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	2名	－	0名		－			

総合評価	教育目標を「枠をこえる知性」と改め、たくましいグローバルリーダーの育成に組織的に取り組んでいることは高く評価できる。進学実績についても安定して成果を上げている。生徒が自ら学校を動かしていく機会が多く、２・３年生が1年生に課外活動や行事を通じて主体性を育てる仕組みを、今後は課題研究でも生かして、充実を図られたい。	AA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　府立大手前高等学校

自己評価の基準	評価審議会評価の基準
A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	AAA ・・・きわめて高い成果をあげている AA ・・・高い成果をあげている A ・・・成果をあげている B ・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ・・・取り組の見直しが必要である

資料2-5

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組 Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①言語活用力・ICT活用力	継続	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	770人	770人	770人	サイエンス探究最終発表 のぞみ発表 サイエンス探究中間発表	A	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	①76% ②90%	①80% ②90%	①78% ②90%	①スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト表現力の項目の平均値 ②委員による実際の評価の肯定的文言の比率。	A	継続	課題研究については、２年前期までの数学を用いた取組みは学校の特色である。２年後期からＳＳコース、ＬＳコースについては、成果と課題を洗い出し、必要に応じて工夫を加えること。また、文科系の課題研究の充実に向けて、社会のさまざまなものの見方や価値観にたくさん触れられるような経験ができるよう工夫してもらいたい。 また、学力の向上に向けて、自習室の開設は一つの工夫であるので、その効果について検証が必要である。	A
		②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	1074人	1000人	1077人	2年生講習は土曜日を中心に実施中 3年生講習は平日放課後に実施中 勉強合宿は年度末に	A	5教科７科目受験者における得点率8割以上の者の割合	39%	35%	34%	センターテスト受験者のうち720点以上の生徒の割合（文系41/116、理系64/193　計105/309）	B	継続		
		③英語運用能力	継続	ネイティブによる４技能向上に向けた授業実践	参加者数	720人	1080人	1080人	全ての学年でのネイティブによるスピーキング指導の実施	A	センター試験英語平均点	133%	135%	136%	センター英語筆記の全国平均（河合塾発表の速報値115点）に対する大手前の平均156点の比	A	充実		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	受入23 派遣185 交流60	受入20 派遣200 交流60	受入0 派遣192 交流0	英国派遣10・オーストラリアサイエンス研修30・オーストラリア語学研修60・アメリカ研修20・（シンガポール語学研修72）	B	異文化について理解を深めることができたと回答した参加生徒の割合	91.5%	93%	93%	実施された研修のアンケートから	A	継続	海外派遣は、アンケート結果から充実したものとなっていることが伺える。 家庭科における保育所実習など、社会の現実に触れる取組みは重要である。 生徒会や自治会の活性化に向けて、まずは生徒同士関係づくりから進めていくことも必要であると考えれらる。	A
		⑤共感力・協調性	充実	①コーラス大会の実施 ②家庭科保育所実習の実施	参加者数	①1080人 ②360人	①1080人 ②360人	①1080人 ②360人	コーラス大会は全クラス参加 保育所実習は一年生のみ	A	この学校で良かったと回答した生徒の割合	88.1%	90%	90%	学校教育自己診断 「学校生活に満足している」と答えた割合（本年度より指標を変更）	A	充実		
		⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部活発表会の実施 ②水泳訓練の実施 ③マラソン大会の実施	①年間2回 ②360名 ③720名	①年間2回 ②360名 ③720名	①年間2回 ②360名 ③720名		A	クラブ加入率	93.5%	94%	90%	クラブ登録データから	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦社会貢献意識を高める	継続	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	151	300	280	大阪城清掃ボランティア参加数	A	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	72%	75%	71%	卒業時のアンケート結果より	B	継続	社会貢献意識について、生徒アンケート結果が、前年度実績および目標値をともに下回っている。遅刻者数については、前年度と比較し大幅に減少している。高い志を目標に据えるよう取組み指標の改善も必要と考える。 また、講演会については、その内容を適宜見直しながら実施することが必要である。	A
		⑧規範意識	充実	挨拶の励行 時間を守るための取り組み	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	当番制で毎日実施	A	1年あたりの総遅刻者数	3725人	2500人	2663人	今年度より「入室許可証」を導入し前年に比べ大幅に減少傾向した。	B	充実		
		⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	77回	100回	80回	後期に集中セミナーを実施 その他進路関係の講演も含む	B	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	86%	87%	88%	スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト#28社会貢献意識の項目より	A	充実		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①15回 ②70人	①15回 ②70人	①15回 ②70人	職員進路研修での全教員への情報提供 模擬試験のふりかえりでの研修	A	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	88.9%	90%	87.8%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している。」と答えた割合	B	継続	バディシステムを取り入れた相互見学の取組みが定着しており、研究授業の回数も多く設定されている。アンケート結果においても、高い水準を維持できている。 今後さらなる授業改善に向けて、他校の教員を巻き込んだ指導力向上研修を実施してもらいたい。	A
		⑪授業指導力向上	継続	研究授業、授業参観等の実施 （バディシステムの導入）	①研究授業の回数 ②公開授業の回数	①71回 ②216回	①50回 ②216回	①69回 ②216回	授業の相互見学（バディシステムによる）は1月末までに全教員が実施	A	授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」二項目の全教員の平均値	87.3%	88%	88%	後期授業アンケート集計	A	充実		
		⑫課題研究指導力の向上	継続	オール文理による全生徒への課題研究の指導の充実	①担当者会議の実施 ②全生徒の二年の発表会の実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②計画通り実施		A	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	85.8%	85%	85%	後期授業アンケート質問５「先生は教科書の他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値	A	継続		
	共通の取組 Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験５教科７科目受験者の割合および得点率8割以上の者の割合は、前年度実績および目標値を下回っている。要因について分析し、今後の指導に役立ててもらいたい。	AA
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 ５教科７科目受験者の割合	91.8%	90%	87%	311人/356人=0.87	B	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									5教科７科目受験者における得点率8割以上の者の割合	39%	35%	34%	センターテスト受験者のうち720点以上の生徒の割合（文系38/110、理系67/201　計105/311）	B	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									全国規模での大会の発表者数	３３人	３５人	４４人	SSH全国1　マスフェスタ１６　日本数学コンクール6　生物学オリンピック１　数学オリンピック１５ パソコン甲子園４　スパコン１	A	継続	科学技術コンテストをはじめ全国規模のコンクール・コンテスト等への参加者数・入賞者数が多いことは大いに評価できる。また、全国の学校が参加できるマスフェスタを継続して主催していることは高く評価できる。今後も学校の特色ともいえる本取組みを継承してもらいたい。	AA
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	①府レベル １９名 全国レベル ５名	①府レベル ２０名 全国レベル ５名	①府レベル １８名 全国レベル ３名	詳細は別紙資料４参照	B	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									ＧＴＥＣスコア690点（CEFR A2相当）以上　１００%取得の維持	100%	100%	100%	受験360人全員がＡ２相当獲得	A	継続	授業の中で４技能をバランスよく身に付けることができるよう、引き続き工夫してもらいたい。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	111人	120人	133人		A	充実	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数については、前年度実績および目標値を上回っており、国公立大学現役進学者数については、目標値は達成している。また、進路希望達成率が前年度実績および目標値を上回っていることは大いに評価できる。	AAA
		⑳進学実績									進路希望達成率 （第一志望への合格率）	37%	40%	41%	191名／４７０名（現役＋浪人）	A	充実		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	157人	150人	153人		A	充実		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	0人	2人	1人		B	継続		

総合評価	自習室の設置や配慮の必要な生徒に対するソーシャルスキルトレーニングの実施など、生徒の学びに対して多面的にきめ細やかなサポート体制を構築しようとしている。課題研究についても１・２年生でアカデミックライティングとして必要な基盤的知識・技能を学ぶことに力を入れており評価できる。マスフェスタやマスキャンプ、サイエンス研修など進学を念頭においた多様な取組みが積極的に行われる一方で、幼稚園実習など社会の現実に触れる試みが、教科をベースに行われていることも注目される。進路希望達成率も前年度実績および目標値を上回っており、今後も真のグローバルリーダーの育成に尽力されたい。	AA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　府立四條畷高等学校

自己評価の基準	A･･･計画以上 B･･･おおむね計画通り C･･･計画以下	評価審議会評価の基準	AAA ･･･きわめて高い成果をあげている AA ･･･高い成果をあげている A ･･･成果をあげている B ･･･取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ･･･取組の見直しが必要である

資料２-８

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
学校独自の取組	Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	・自学自習力 ・言語活用力	継続	学習強化日と英語コミュニケーション集中講座の実施	自学の取組みにおける生徒の自己評価	94%	80%以上	93%	定期考査の振り返り、英語コミュニケーション集中講座、課題研究に向けての講演、キャリア教育の要素を加え、自学のモチベーションアップを図っている。	A	英語コミュニケーション集中講座の取組についての生徒の評価(肯定的意見)	81%	90%以上	84%	受講後の生徒の英語に対するモチベーションは高まっている。以前は肯定的意見が９０％を超えていたが、本校の英語授業が4技能型に変更されており、集中講座の内容の検討が必要と思われる。	B	継続	英語のコミュニケーション集中講座については、アンケート結果を踏まえ、充実に向けて内容を再検討してもらいたい。 探究ラボの取組みは卓越した生徒の育成に資する取組みであるが、その他の生徒にも参加を促す仕組みも必要である。	A
		・ICT活用力 ・コミュニケーション力 ・表現力	継続	プレゼンテーション大会の系統的実施	参加人数	1080名	720名	1080名	１年生は11月に「情報社会の課題」をテーマにグループ発表を、2月に英語スピーチコンテストを実施予定。いずれもクラス予選を経て代表が本選で発表する。2年生は、11月に英語によるグループ発表を実施する。	A	各種プレゼン大会に向けての取組に対する生徒の評価(肯定的意見)	90%	90%以上	92%	1年生「情報社会の問題」と2年生の英語によるグループ発表では、昔話を題材に劇を作り、パワーポイントも利用しながらプレゼンを実施した。英語スピーチコンテストは、各生徒オリジナルの英文で2月に実施。	A	継続		
		・科学的リテラシー	継続	「探究ラボ」による科学的リテラシー育成	取組メニューの数	８個	１０個	２０個	大阪サイエンスデイ（４チーム９人）、阪大SEEDS（２名）が参加。本校の文化祭、オープンスクールでは「探究ラボ」として発表、体験授業を実施。	A	「探究ラボ」の生徒による活動への評価（肯定的意見）	89%	90%以上	100%	校内での探究活動（基礎実験、討論やプレゼンなど各含む）に加え、郊外での様々なイベントにも積極的に参加している。	A	継続		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性	継続	海外修学旅行及び海外からの訪問者受入による国際交流	修学旅行全般についての生徒の評価（肯定的意見)	98%	90%以上	97%	修学旅行（１０／１５～１０／１８）では、２年生が台湾に行き、姉地高校生との交流を行った。	A	国際交流に対する生徒の評価(肯定的意見)	94%	80%以上	97%	今年度は、オーストラリアの姉妹校、台湾の提携校からの訪問はない年にあたっている。	A	継続	ベトナムのボランティアツアーなどは目的が明確であり、社会貢献意識を育むのにきわめて有効であり、高く評価できる。参加者がその他の生徒に経験を伝え、全体に還元し好循環を生むような仕掛けをさらに期待する。	A
		・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性	継続	海外研修（オーストラリア・ベトナム）及び国際交流プログラムの充実（1･2年希望者）	参加人数	122名	７０名以上	４４名	スタンフォード研修(１名)、おおさかグローバル塾短期留学(1名)、大阪府教育庁オーストラリア研修(2名)、大阪府教育庁イングリッシュキャンプ(9名)、AIG日米高校生プログラム(4名)、今後、ベトナム研修（６名）、オーストラリア研修（20名）、グローバルリーダーイングリッシュキャンプ1名。 今年度は本校主催のイングリッシュキャンプの実施をキャンセルしたため、海外研修及び国際交流プログラムの目標値(70名)に達しなかった。	B	海外研修参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	ベトナム研修を実施した、オーストラリア研修は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。	A	継続		
		・協調性 ・健康・体力 ・リーダー育成	継続	充実した部活動の維持	部活動の参加率	93%	90%以上	96%	部活動の参加率は１年生で99%、３学年合わせると96%になっている。	A	部活動による入賞件数	72件	６０件以上	95件	近畿大会には、男子ソフトテニス、卓球、山岳、水泳、軽音楽、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、写真が出場。 全国大会には、陸上、男子ソフトテニス、囲碁同好会、珠算同好会が出場。	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	・進路実現　高い志	継続	飯盛セミナーの実施	講座数と参加人数	12講座 510名	10講座 400名	4講座 623名	今年度は形態を変え、11/5･6の2日間で、「人生のターニングポイント」「失われた街の復元」「万博2025 近未来ビジネス」「知的財産マインド」の4講座に限定して鹿深野ホールで実施。複数の講座に参加することができるようになった。	A	参加生徒によるプログラムに対する評価（肯定的意見）	97%	90%以上	97%	市長、建築家兼大学准教授、未来社会のデザイナー、弁護士など、様々な内容の講座を実施する。生徒は興味関心に応じて1~4講座受講できる。	A	継続	本年度、形態を変更した飯盛セミナーについては、アンケート結果が目標値を上回っているので一定の評価を得られているが、実施効果について見極めて、引き続き改善を加えていただきたい。 地元の四條畷市との連携は生徒が社会とつながる大変有効な取組みであり評価できる。	AA
		・進路実現　高い志	継続	大学研究室訪問（東大・京大・阪大・神大）	参加人数	330名	300名以上	375名	本校卒業生の研究室等を訪問し、大学教授による講義を受け、研究施設を見学した。大学別参加者数は、東大20名、京大122名、阪大140名、神大93名。	A	参加生徒によるプログラムに対する評価（肯定的評価）	98%	90%以上	96%	「知的好奇心を刺激するものだった」の肯定率は95％と高く、専門的な研究や設備にふれることで、より実感的に大学や学問をとらえ、進路や自己実現について考えを深める機会となったといえる。	A	継続		
		・規範意識とリーダーの資質向上	継続	①登校指導の実施 ②アドプト・ロード・プログラム及び地域清掃活動の取組み	①実施日数 ②のべ参加者数	①168日 ②758名	①160日 ②250名	①180日 ②616名	①登校指導は180日。 ②アドプトロード、地域清掃の取組みは継続的に実施している。	A	積極的に挨拶していることへの生徒の自己評価（肯定率）	91%	90%以上	92%	多くの生徒が自発的に挨拶を行っている。	A	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	教員力の向上	継続	研修の系統的実施及びメンタリングによる教員の相互育成	研修実施回数と参加人数	年５回 213名	年３回 150名以上	年７回 225名	スキルアップ研修（1回め46名）(2回め31名）、人権研修（６０名）、不登校生徒支援モデル事業（1回め２３名）（２回め１８名）(3回め19名)4回め(28名)を実施。	A	研修に対する教員の評価（肯定的意見)	96%	80%以上	93%	この数年、数が増加している不登校生徒の対応・難聴生徒への支援・進路指導のスキルアップ研修を実施。いずれも日常の生徒指導に直結するものであり、肯定的意見が多数を占めている。	A	継続	教員研修は学校における課題と直接結びつくものとするなど、工夫されている。 初任者ミーティングも、さまざまなスキルを身に付けるうえで、有効であるので、継続して実施してもらいたい。 相互見学についてはさらなる充実を期待する。	A
		・初任者の指導力向上	継続	初任者の指導力向上のための取組み	初任者ミーティング実施回数	12回	12回	１2回	各分掌長やミドルリーダーが講師となり、校内初任者研修を実施。2年目の教員もメンターとして適宜参加し、意見交換を行っている。	A	初任者ミーティングに対するアンケートや感想による教員の評価（肯定的意見)	100%	90%以上	100%	初任者ミーティングにメンタリングの要素を入れており、充実が図られている。教員として身につけるべき又スキルや生徒対応を本校職員の体験を基にした講話などいずれも高評価であった。	A	継続		
		・教科指導力向上 ・教材開発	継続	①研究授業び教員間の授業公開の実施 ②アクティブラーニングへの取組み	①実施回数 ②取組み教員数の割合	①１９回 ②７５％	①１０回 ②８０％	①１5回 ②８３％	研究授業は初任者2名×各1回・2年目2名×各1回、公開授業期間に１１回。	A	授業力向上に関する学校教育自己診断の評価（肯定率）	96%	90%以上	90.5%	2学期中に26名の教員が授業見学を行い、授業力向上に努めた。そのうち5回以上見学した教員が2名、4回以上が1名、3回以上が2名となっている。	A	継続		
共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は前年度実績と目標値を下回っており、改善が向けて要因を分析する必要がある。また、センター試験の得点率８０%以上の割合については、目標値から改めて設定しなおすべきと考える。	A
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	78.1%	80%	75.3%	268/356　H31年度より分母を「在籍者数」としたため、目標値をやや下回った。	B	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									大学入試センター試験５教科７科目受験者の得点率８０%以上	31%	20%	26%	70/268(文系23・理系47)　センター試験難化の影響もあったが、目標値を上回った。	A	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									外部でのポスター、プレゼン発表数	23グループ	15グループ	38グループ	他校での発表２本、ＳＳＨ生徒発表会１本、グローバルリンクシンガポール２本、実験力大会２本,SGH･WWL･GLHSの発表会、IBLユースカンファレンス等(発表予定の者含む)	A	継続	課題研究は、持続可能な指導体制が組織されているうえ、さらに深く研究ができる探究ラボについても評価でき、その結果が、コンテストでもあらわれてきていると考えられる。 コンテストについては、生徒の多様性に対応できるよう、様々な取組みに参加を促すようにすることも考えられる。	A
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									外部のコンクール・コンテスト入賞者	９チーム （20名）	入賞10名	８件７チーム ３３名	ライオンズクラブスピーチコンテスト入賞２名	A	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									各種英語外部検定試験において CEFR ①B２レベル ②B1レベル	①　4名 ②133名	①　5名 ②50名	①3名 ②88名	1・2年生は、畷高アンケートの英検合格者数の人数、3年生はGTECの成績より算出。前年度までは、TOEFLを基準としていた。	A	継続	3人のネイティブの教員をうまく活用し、着実に実績を上げており、評価できる。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	８５名	８５名	９８名	SGU58名・GSU94名 北大３・東大１・東工大１・金沢大１・名古屋大１・京都大８・大阪大３７・神戸大３７・岡山大２・広島大４・慶応大１・早稲田大２	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学と、国公立大学現役進学者数は、前年度実績および目標値を上回っており大いに評価にできる。 また、難関３国立大学（京大・阪大・神大）現役・浪人合格者数についても、前年度実績及び目標値を上回っており、要因を分析して、引き続き向上できるようにしていただきたい。	AAA
		⑳進学実績									難関３国公立大学（京大・阪大・神大）現役・浪人合格者数	６８名	７０名	８２名	京大　８（現役　４浪人　４） 阪大３７（現役２７浪人１０） 神大３７（現役３２浪人　５）計８２名 現役合格者の数が増加。	A	継続		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	１３３名	120名	143名	現役合格者数149名 現役進学者数及び合格者数ともに昨年度を上回る。	A	継続		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	１名	1名	１名	スポーツ推薦により Ohlone Collegeに進学	A	継続		

総合評価	外部講師による飯盛セミナーのプログラムを整理するなど、特色のある活動についてもスクラップ＆ビルドを実践し、生徒・保護者の満足度を大切にするなど、マネジメントの軸がしっかりできている。課題研究の指導も組織化されており持続可能な体制作りが図られている。「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、地域に根差し愛される伝統校としてさらなる躍進に期待する。	A

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　府立高津高等学校

自己評価の基準	評価審議会評価の基準
A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	AAA ・・・きわめて高い成果をあげている AA ・・・高い成果をあげている A ・・・成果をあげている B ・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ・・・取組の見直しが必要である

資料2-９

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価審議会の評価 評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組 Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①学習方法の定着 読解力リテラシー	継続	１年生学習合宿	参加生徒数	１年生全員	１年生全員	１年生全員	１年生全員が参加し、参加姿勢も良好。	A	高校での学習方法が学べたと回答した生徒の割合	100%	95%	97%	参加態度も大変良好で、高津生としての自覚を持つことができ、大きな成果が得られた。	A	継続	学年全員が課題研究を行えるように、教員マニュアル作成など工夫をしてきたことが成果に表れている。振り返りを丁寧に行い、さらなる改善を行ってもらいたい。 また、１年での職場訪問の機会に全員がプレゼンテーションを行うなどの取組みが、２年生以降に生かされており、系統だった指導ができている。	A
		②言語・ＩＣＴ活用力	継続	校内課題研究発表会	参加生徒数	約1,300人	1,300人	約1,300人	午前の全体会では招待校発表もあり、また、現２年生から全員が文理学科となったため、午後の分科会では昨年の倍に近い１１０を超える発表が行われた。	A	取組みが充実していたと回答した生徒の割合	95%	95%	97%	現２年生から全員が文理学科となったのに伴い、研究や発表の方法に工夫を行い、課題研究の取組みが一段と進化・深化した。	A	継続		
		③英語運用能力	充実	①英語コミュニケーション講座（KiTEC）［１年全員および発展コース（１・２年希望者）］ ②オーストラリア語学留学	参加生徒数	①1年330人 ②12人	①１・２年450人 ②12人	①1・2年391人 ②4週間3人、2週間15人	①発展コースを復活して、57人が参加。 ②4週間と2週間のコースを設定し、満足度の高い効果的な研修となった。	A	それぞれの取組みを通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①98% ②100%	①98% ②100%	①1年97% 発展99% ②100%	①１年生全員実施かつ1・2年希望者対象の発展コースを実施。生徒の英語力を伸ばす機会となった。 ②英語学習に対する意識が前向きに変化する研修となった。	A	継続		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④健康・体力、協調性	継続	自治会が主体となった文化祭・体育祭の実施	参加団体数	全クラス、有志等：28団体	全クラス、有志等：20団体	全クラス、有志等：35団体	分割実施の３年目。６月体育祭、９月文化祭が定着し、文化祭ではクラスやクラブに加え、有志がさらに増加した。	A	記念祭に満足したと回答した生徒・保護者の割合（「分からない」を除く）	生徒97% 保護者96%	生徒・保護者95%	生徒97% 保護者96%	分割実施が定着し、実施形態や内容など毎年見直しが行われ、活気ある行事となった。さらに、生徒の主体性を育み、深化させたい。	A	継続	文化祭や体育祭を通じて、生徒の積極性・協調性・調整力が引き出されており、大変評価できる。 支援学校や地域との交流も、生徒が主体的に行っており、アンケート結果からも有意義であったことがうかがえ、高く評価できる。	AA
		⑤違いを認め共に生きる力、共感力、協調性	継続	①高津キャラバン隊（ボランティア活動） ②支援学校との交流	①参加クラブ数 ②参加生徒数	①全クラブ ②生徒自治会・クラブ３団体	①全クラブ ②生徒自治会・クラブ３団体	①全クラブ ②生徒自治会・クラブ３団体	①各クラブが自主的・積極的に取り組んだ。 ②10月4日に授業交流を実施し、生徒自治会、ダンス部、吹奏楽部、空手道部が参加。さらに、２月2日にも交流会を実施し、有意義な交流となった。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①96% ②100%	①95% ②95%	①96% ②100%	①は全クラブが取り組み、②は年２回の交流を実施することができ、どちらの取組みも有意義な形で定着してきた。	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑥高い志	再編	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内（九州）サイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加生徒数、実施日数 ③参加生徒数、実施日数	①1,543人 ②台湾14人3泊4日 ③国内2泊3日で九州39人	①1,500人 ②15人、3泊4日 ③30人、2泊3日	①2,122人 ②台湾13人3泊4日 ③国内2泊3日で九州37人	①2,122人と人数そして内容も発展している。 ②台湾で現地校2校と合同で河川調査およびポスター発表を実施。 ③種子島・屋久島のサイエンスツアーは生徒の人気も高く、有意義なツアーとなった。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①96% ②100% ③100%	①95% ②95% ③100%	①96% ②100% ③100%	②12月の台湾に加え、７月にJSTさくらサイエンスプランにより、東アジア高校生環境フォーラム2019を本校で開催。韓国、台湾、日本の高校生で合同河川調査やポスター発表を行い、交流を深めた。	A	継続	外部の公開講座への参加者数が大幅に増えているとともに、アンケート結果からも満足度が高いものとなっていることが伺え、高く評価できる。 土曜講習については、前年度実績および目標値を達成したものの、さらなる改善を行っていただきたい。	AA
		⑦進路実現	継続	土曜講習	実施日数	１年19日 ２年19日 ３年21日	全学年18日以上	１年19日 ２年19日 ３年21日	土曜講習は１年生は原則全員参加、２・３年生は希望参加とし、組織的かつ計画的に実施している。	A	土曜講習が学力向上や進路実現（決定）に役立ったと回答した生徒の割合	65%	73%	73%	講習については、組織的に到達目標や具体的内容を定め、実施している。目標値は達成したが、今後もさらなる深化を図っていきたい。	A	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑧授業指導力向上	充実	研究授業・研究協議、授業参観の実施	各取組みの実施回数	研究授業10回 研究協議10回 授業参観92回	研究授業10回 研究協議10回 授業参観60回	研究授業10回 研究協議10回 授業参観82回	研究授業や授業参観について、目標数を達成した。授業改善が求められる中、教員にとってよい研修の機会となった	A	本校の授業は、知的好奇心を抱きやすいなど、内容が濃いと回答した生徒の割合	77%	75%	79%	新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、教員は授業改善に取り組んでいる姿勢が見られる。	A	継続	研究授業や授業参観などの機会が適切に設定されており、授業改善に取り組む姿勢が見受けられる。 今後は他校の教員も巻き込んだ指導力向上の取組みができるように検討いただきたい。	AA
		⑨進路指導力向上	継続	民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	14回 202人	15回 200人	15回 208名	適切な時期に研修を行い、研修で得た情報をもとに、進路指導や授業・講習の改善を図ることができた。	A	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合	88%	85%	88%	「高津進路プログラム（KSP）」が定着し、さらに個々の取組みについて充実が見られる。	A	継続		
		⑩教材開発、授業効果の向上	継続	①補助教材（オリジナル）の工夫 ②シラバス到達目標のブラッシュアップ	①補助教材にさらに工夫を凝らした教員の割合 ②実施教科数	①100% ②全教科	①100% ②全教科	①100% ②全教科	すべての教員が積極的にプリントや視聴覚教材等の補助教材について工夫や改善を図り、より素晴らしい授業にしようと取り組んでいる。	A	①生徒授業アンケート質問５（教科書の他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている）に対する評価 ②生徒授業アンケート質問９（授業を受けて知識や技能が身についた）に対する評価	①3.3 ②3.3	①3.3 ②3.2	①3.4 ②3.3	指標とした２つの項目以外にも、高い数値となっており、教員が授業に真摯に取り組んでいる様子がわかる。	A	継続		
	共通の取組 Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験５教科７科目受験者の割合は、前年度実績を上回っているものの、目標値には届かなかった。また、得点率８割以上の生徒の割合については、目標値にわずかに下回っている。 要因を分析し、今後の進路指導に生かしていただきたい。	AAA
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	82.5%	85%	83.2%	多くの生徒が国公立大学への志望を貫き、最後まで努力を続けた。「チーム高津」として互いに高めあう意識はさらに向上しており、目標値には届かなかったものの、前年度実績を超えることができた。	B	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									５教科７科目受験者における得点率８割以上の生徒の割合	25.1%	20%	19.5%	センター試験の難化に伴い目標値をやや下回ったが、進路実現に向けて生徒・教員が一体となり、しっかりと努力することができた	B	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	91%	95%	92%	生徒の取組み精度は確実に向上してきている。今年度は特に課題研究について肯定的に捉えている生徒が増加した。	B	継続	課題研究について経験のない教員でも指導できるようマニュアルを作るなど、学校全体で課題研究に取り組んでいることは大いに評価できる。課題研究は少しの工夫で成果に大きな影響が出るので、毎年フィードバックを行い、改善していくことが重要である。 文理の境界にあるようなテーマを両側から指導していくような取組みにも期待をしたい。 卓越した生徒を学校としてどう育成するかも合わせて検討いただきたい。	AA
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									入選数	10本	10本	9本	・大阪府学生科学賞　大阪府教育委員会賞 ・大阪府生徒研究発表会　金賞１、銀賞１ ・京都・大阪数学コンテスト　奨励賞 ・全国高校化学グランプリ　日本化学会支部長賞 ・高校化学グランドコンテスト　金賞１　ポスター賞１ ・高校生チャレンジ（電気化学会関西支部）奨励賞 ・読売新聞ビブリオバトル2019西日本大会優秀賞	B	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									１・２年生の12月実施第２回GTECスコアレポート	新規	CEFR B1：80人	CEFR B1：122人	１・２年生について6月と12月の年2回GTECを受検することとし、指導を進めてきた結果、目標を大きく上回ることができた。	A	継続	英語コミュニケーション集中講座など、英語運用力向上に資する取組みを継続して実施してもらいたい。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	80人	80人	85人	前年度の実績および目標を上回り、近畿圏にとどまらず全国の有力大学への進路を安定して実現できている。	A	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、前年度実績および目標値を上回っており評価できる。 近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数と、国公立大学現役進学者数については、目標値を下回っているものの、前年度実績を上回っており、評価できる。	AA
		⑳進学実績									近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	68人	80人	77人	目標値に肉薄する成果をあげることができた。現役での医学科合格者を輩出したほか、近畿圏難関国立大学への合格者数が増えるなど安定した成果を上げることができた。	B	継続		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	118人	130人	126人	目標を少し下回ったが、安定した成果を上げることができた。合格者は139人に達しており、第一志望へのこだわりを持って再挑戦する生徒が多数見受けられた。	B	継続		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	1人	1人	0人	目標を達成することはできなかったが、グローバルな視点を持ち、大学進学後の留学を目指して国際系の学部等に進学する生徒を多く輩出できた。	B	継続		

総合評価	高い目標を掲げていることから実績が目標に達しなかった項目も見受けられるが、高みをめざす姿勢は大切にしてほしい。普段の授業から「主体的・対話的で深い学び」を実現しようとしており、課題研究についてもテーマを自発的に決定するなど意欲的に取組み、発表内容の質も担保されている。職場訪問やボランティア活動など社会との接点をもつ機会を創出している点も評価できる。高津高校らしさを大切にしつつ、さらに躍進されることを期待する。	AA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　府立天王寺高等学校

自己評価の基準	評価審議会評価の基準
A･･･計画以上 B･･･おおむね計画通り C･･･計画以下	AAA ･･･きわめて高い成果をあげている AA ･･･高い成果をあげている A ･･･成果をあげている B ･･･取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ･･･取組の見直しが必要である

資料2-6

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組 Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①自学自習の確立	継続	桃陰セミナーの実施 （勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数	２４回	２０回	19回	全２２回予定	B	桃陰セミナー１日当たりの平均参加者数。	２２５名	250名	１９５名	19回分の平均参加人数 （土曜日の部活動など参加しにくい状況が増えた。夏休みの部学習を促進して対応した。）	C	新規	各学年で達成する学力基準として天高スタンダードを作成され、生徒の学びを後押ししている。また、その達成目標の見直しなど、絶えず改善されていることは大変評価できる。 「Road to GL」については、内容を留学生による英語漬けプログラムに変更されたが、参加者アンケートの満足度が100%となっており、成功したといえる。	AA
		②基礎学力の充実・確立	継続	天高スタンダードの充実（各学年で達成する学力基準）及び学力育成プログラムの見直し	天高スタンダード達成目標の見直し、学力育成プログラムの見直し、自主教材の作成。	自主教材（国・世・数・化・英）使用	各教科より良き改訂をめざす	自主教材作成及び改訂し使用	国語・数学・化学・英語・創知Ⅰ・研究倫理・ディベートについて自主教材を作成、使用している。	B	天高スタンダード到達目標の達成率	90%	80%以上	91.2%	各教科達成率自己評価の平均	A	継続		
		③英語運用能力	継続	「Road to GL」（ネイティブ講師による5日間校内留学）の充実	校内留学プログラム「Road to GL」の昨年度並みの実施	55名	参加者８５名以上	７３名	１年７１名 ２年２名	B	「Road to GL」参加者の満足度	100%	80%以上	100%	参加者アンケートより	A	継続		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④人権意識、共感力の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会、ワークショップの実施	人権講演会・ワークショップの回数	８回	８回	８回	1年･情報モラル･いじめ弱者問題･障がい者理解 2年･社会の中の人権･さまざまな人権問題･戦争と人権 3年･雇用と人権･在日外国人問題	B	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	96.9%	85%以上	96.7%	充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続	天高育成プログラムで示される力の育成として、人権講演会、野外生活体験学習、能楽鑑賞・文楽鑑賞などさまざまな取組みが行われており、いずれも非常に高い満足度が維持されている。水泳大会では、水泳が苦手な生徒も活躍できるような工夫も伺える。 あいりん地区の夜回りされている方の講演など、生徒を揺さぶる仕掛けは素晴らしい。	A
		⑤健康と体力と協調性を育む	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	計画通りの実施	天候による変更はあったが、ほぼ計画通り実施	計画通りの実施	ほぼ計画通り実施	林間学校（1日のみ台風で中止） 水泳訓練、水泳大会 金剛登山、徒歩訓練、長距離走	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	95%	85%以上	94%	安全面の配慮を徹底して実施した。充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続		
		⑥日本古来の伝統に触れる（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 能楽鑑賞、文楽鑑賞	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通りの実施	計画通り実施	能楽鑑賞（１年１月実施） 文楽鑑賞（２年11月実施）	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	90%	85%以上	96.5%	伝統芸能に触れる貴重な機会であり、充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	継続	学校遅刻者の減少	学校遅刻者数	2337	1800以内	1609	目標を上回った。	A	部活動への加入率	99%	95%維持	100%	学校教育自己診断より	A	継続	天高育成プログラムで示される力の育成に向けて、天高アカデメイアをはじめとするアカデミックな講演会を実施しており、いずれも生徒の満足度が非常に高い。 また、SSH、GLHS等を活用した海外研修でも中心的な役割を担い、その内容を絶えず改善している点も評価できる。 学校独自の海外研修も含めて、生徒の満足度は非常に高い。	AA
		⑧高い志の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、 社会人講演会、学部学科説明会 天高アカデメイア等の実施。	講演会の実施回数	天高アカデメイア14回実施	天高アカデメイア10回以上	天高アカデメイア14回実施	①食べる科学 ②音楽の物理 ③ゲノム編集PS ④キャリア形成 ⑤ニホニウム ⑥宇宙を支配する数式 ⑦外国語理解 ⑧癌治療創薬 ⑨はやぶさ２ ⑩リスクとリターン⑪ハンセン病文学⑫統計⑬スパコン⑭開発とは	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	98%	85%以上	96.7%	①～⑭までの平均値 充実した感想文が多数寄せられた。	A	継続		
		⑨海外セミナーの実施	継続	SSH、GLHS等を活用した海外研修。 （米国シリコンバレー、他） 独自の取り組みによる海外セミナー （台湾）	独自の取り組みによる海外セミナーとして台湾研修を充実させる。	台湾24名（新規）ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ19名参加	参加人数30名以上	米国、シンガポール研修実施済、台湾研修中止	米国シリコンバレーで研修(GL10校から20名参加）シンガポール研修(19名参加）台湾研修(25名参加予定)はコロナ禍で中止	B	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	100%	85%以上	97%	①米国研修　100% ②シンガポール研修　94% ③台湾研修　3月予定は中止	A	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩研究授業の実施 教員相互の授業見学実施	継続	研究授業を行う。他の教員の授業を見学する。 授業公開週間を設置する。	①研究授業の回数。 ②教員１人当たりの授業見学回数。	①研究授業のべ39回 ②授業見学平均7.0回	①研究授業延べ15回 ②授業見学平均5回	①研究授業18回実施 ②授業見学7.5回	国語１回、社会１回、数学４回、理科１回、英語２回、体育・芸術・家庭９回の研究授業実施（公開授業含む）	A	生徒による授業アンケート（満足度）	第1回 85% 第2回 88%	80%以上	第1回 86% 第2回 87%	第1回　7月実施　3.46／4.00 第2回 12月実施　3.50／4/00	A	継続	日本一の授業が受けられる学校という分かりやすい目標設定がプラスに働き、教員同士の学びあいも充実している。 教員の入れ替わりの中で、これまでの取組みをどう継承していくかが課題である。	A
		⑪教科指導研修会の実施	継続	外部講師による教科指導法向上の講座を開講する。	外部講師による教科指導法講座の回数。	外部講師による教科指導報講座のべ11回	外部講師による教科指導法講座5回	外部講師による教科指導報講座のべ11回	8月：数2、英2、国1、化1 8月～9月 ：英1、数1、国1、物1、生1	A	生徒による学校教育自己診断アンケート（授業や教材、教え方の満足度）	89%	85%以上	92%	学校教育自己診断より	A	継続		
		⑫新採用や経験の浅い教員対象の研修会	継続	桃陰塾として実施する。	毎回ミドルリーダーによる講師を変えて実施する。	7回実施	7回実施	7回実施	首席等を講師に、年間を通して実施。	B	参加教員の満足度	88%	85%以上	87.5%	新転任等８名を対象に実施	A	継続		
共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は、目標値に到達しなかったものの、高い水準を維持している。 得点率8割以上の生徒の割合は、前年度実績及び目標値を上回っており評価できる。要因を分析し、進路希望実現に向け今後に生かしていただきたい。	AAA
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	360名中、336名 93.3%	95%以上	353名中、328名 92.9%	在籍数353名中328名出願した。	B	－		
		⑮大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における 得点率8割以上の生徒の割合	164名 (48.8%)	35%以上	170名 (51.8%)	170/328 （センターリサーチから）	A	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									ルーブリック評価の導入	校内課題研究発表や教科で活用した。	開発及び校内研究発表における活用	校内課題研究･大阪ｻｲｴﾝｽﾃﾞｨ、教科で活用。	近畿北陸８校による「高大接続ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ」を開催。研究協議を行った。 校内課題研究や大阪ｻｲｴﾝｽﾃﾞｨ、各教科において活用した。	A	継続	科学技術コンテストをはじめ、コンクール・コンテスト等の受験者数・入賞者数が増加しており、大変評価できる。 ルーブリック評価については、評価することが目的とならないように、何のための評価なのかを話し合いながら、絶えず改善していっていただきたい。８校シンポジウムを開催できたのも大きな成果である。	AAA
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の①受験者数　②入賞者数	①３４８名 ②８名	①100名 ②5名	①４０４名＋3件 ②７名＋2件	物理ﾁｬﾚﾝｼﾞ　17【奨励賞1】H30国際大会銀 化学ｵﾘﾝﾋﾟｱｰﾄﾞ　113【銀賞1、銅賞2】 生物ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ　118【銀賞1、敢闘賞1】 情報ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ　14【Aﾗﾝｸ1】 数学51、地学22、地理69ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ受験中 日本学生科学賞【入選3等】 全国高校生フォーラム2名　審査委員長賞 高校模擬国連全国大会２名　出場	A	充実		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									実用英語技能検定	91名	2級以上 80名	52名	準１級７名、2級４５名	C	継続	４技能習得をめざしたネイティブによる授業が実践されている。外部検定の参加を促す仕組みを工夫いただきたい。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	170名	150名以上	200名		A	－	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数、国公立等医学部医学科進学者数、国公立大学現役進学者数は、いずれも前年度実績および目標値を大きく上回っており、大変評価できる。 また、海外大学への進学者数も前年度実績および目標を上回っており、多様な進路を実現させることができており、評価できる。	AAA
		⑳進学実績									国公立等医学部医学科進学者数（浪人生含む）	22名	15名以上	24名		A	継続		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	138名 (38%)	全体の40%以上	185名 (52%)		A	－		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	1名	受験者を出す	3名	淡江大学（台湾） アデレード大学（オーストラリア） イースト・アングリアア大学（英国）	A	－		

総合評価	文武両道を極めて高いレベルで実現されており、大学合格よりも人間性向上を目標とするなど、学校の軸がぶれていないところが天王寺高校の強みであり魅力である。教師同士の学び合いから高い授業力が継承されており、各種の行事も生徒の豊かな人間性の醸成に寄与しているが、一方で教員の負担の大きさは課題であろう。今後も日本を代表する公立校として高校教育を牽引していただきたい。	AAA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート

府立生野高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・ややおくれあり（回復） C・・・計画以下	評価審議会評価の基準	AAA ・・・きわめて高い成果をあげている AA ・・・高い成果をあげている A ・・・成果をあげている B ・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ・・・取組の見直しが必要である

資料2-３

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組 Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①基礎学力の定着	継続	自学自習時間を増やす取組 進学講習の実施	学習状況調査の実施 進路HRの実施 ３年進学講習参加者数	年３回実施 各学年５回 ３年前期希望者講習　５５６名 ３年後期希望者講習　３３５名 ３年夏期講習　１０６２名	年３回実施 各学年５回 ３年前期希望者講習　５５６名 ３年後期希望者講習　３３５名 ３年夏期講習　１０６２名	年３回実施 各学年５回 参加者数延べ1716名	年３回実施 各学年５回 ３年前期希望者講習　３９７名 ３年後期希望者講習　３０２名 ３年夏期講習　１０１７名	C	各学年の自学自習時間 １年・２年の平日の自学自習時間１時間未満の割合 進学志望達成率	1年前期　71.3分 2年前期　94.1分 3年前期　171.5分 1年後期　67.6分 2年後期　110.6分 3年後期　223.6分 1時間未満 1年　28.2% 2年　3.5% 達成率　65%	1・2年　90分 3年　180分 1時間未満　30.0%以下 達成率　65%以上	１年達成率７０％ ２年達成率８４％ ３年達成率１００％ １時間未満前後期平均では達成	1年前期　76.1分 2年前期　70.3分 3年前期　180.1分 1年後期　66.3分 2年後期　81.4分 3年後期　216.0分 1時間未満（前期） 1年　23.0% 2年　28.7% 1時間未満（後期） 1年　34.7% 2年　19.8%	B	継続	生徒の自学自習時間については、１年生と２年生で、昨年度実績を下回っている。特に２年生は３０分近く減少しており、改善が必要である。１年生後期から２年生前期にかけて１時間未満の生徒が増加することから、改善に向けた対策も考えてもらいたい。 探究活動の満足度が前年度実績および目標値から大きく下回っており、要因を丁寧に分析し、改善に生かすこと。 英語運用力の向上については、目標値を達成しており、評価できる。	A
		②言語活用力・ICT活用力	継続	プレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーション発表者数（校内・校外） 海外サイエンスツアーでの研究発表	校内　延べ７２０名　SSH中間発表 校外　延べ５５名 放射線サマーセミナー SSH生徒研究発表会 サイエンスフェスタ 千里高等学校課題研究中間発表 大阪サイエンスデイ第１部 松原第六中学校出前授業	校内　延べ　７２０名 校外　延べ　５０名	校内７２０ 校外　４１	校内　延べ７２０名 SSH・探究Ⅱ中間発表 オーストラリア語学研修報告会　４１名 校外　延べ４１名 SSH生徒研究発表会　５名 大阪サイエンスデイ第一部　３６名	B	アンケートによる生徒の評価	SSH・探究Ⅱ発表会 92%	90%以上	右参照	本年度は探究活動に関して事前・事後の満足度について、その伸び率を調べた。 15項目 事前　平均　67% 事後　平均　81%	B	継続		
		③英語運用能力	継続	GTECを利用しての英語運用能力向上 英語集中講座の実施	運用能力をはかる目安としてGTECを活用し、計画的にその向上を図る。 英語集中講座参加者数	１年生全徒が受験 集中講座参加者　１２名	2年終了時にほぼ全ての生徒がＡ２レベルを取得 かつ平均点65%以上 英語集中講座参加者数 ２５%増	GTECの目標は達成	1年Ａ２レベル以上　９９%　３５７名 平均点　852/1280　67% ２年Ａ２レベル以上　９７%　３４４名 平均点　860/1280　67% 集中講座参加者　１２名 コロナ関係で実施できず	未	1年でＡ２レベルの人数割合と平均点 2年でＡ２レベルの人数割合と平均点 英語集中講座参加者数	1年Ａ２レベル以上 95%　345名 平均点　603/980　62% 集中講座参加者　１２名	1年でＡ２レベル　90%以上 690点以上の生徒60%以上 2年でＡ２レベル　90%以上 かつ平均点65%　820点以上 英語集中講座参加者数 15名以上	GTECの目標は達成	1年Ａ２レベル以上　９９%　３５７名 平均点　852/1280　67% ２年Ａ２レベル以上　９７%　３４４名 平均点　860/1280　67% 集中講座参加者　１２名 コロナ関係で実施できず	A	英検に変更する		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力	④違いを認め共に生きる力	継続	異文化理解教育の推進	海外スタディツアー、サイエンスツアーの参加者数	スタディツアー　４０名 韓国文化交流　１２名 アメリカサイエンスツアー１０名 GLHS研修　１名	６０名以上	６７名	スタディツアー　４０名 中国文化交流　現在１６名 アメリカサイエンスツアー１０名 GLHS研修　１名	B	アンケートによる生徒の評価（肯定的意見）	スタディツアー　97.5% サイエンスツアー　100%	９０%以上	スタディツアーの目標は達成	スタディツアー　９８% 満足８５%　やや満足１３% ８０%が参加して英語に自信がついた、１００%が英語への学習意欲が増したと回答 サイエンスツアー コロナの影響で実施できず	A	継続	スタディツアーは取組み目標を上回っているとともに、生徒アンケートからも充実していることがうかがえ評価できる。 部活動では高い実績を出していることは生野の特色の一つとして評価できるが、自学自習の時間の確保など、学習との両立が図ることが課題である。	AA
		⑤共感力、協調性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	自治会による部代表者会議及びリーダー講習会実施による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養 学校行事に進んで参加する生徒の割合 府大会以上の大会出場部数を恒常的に確保	部代表者会議の開催　６回 リーダー講習会実施　外部講師招聘 ７１名参加 行事参加率調査　８９% 延べ２７部が出場	部代表者会議の開催　６回 リーダー講習会参加　６５名以上 行事参加率調査　８５.０%以上 延べ２０部以上	中止になったもの以外は達成 代表者会議６回 ９０% ３０部以上	部代表者会議　５回実施済み リーダー講習会３月１９日実施予定だったがコロナの影響で実施できず。 行事参加率調査　９０% 延べ３０部以上	B	学校教育自己診断による生徒の評価（達成感、満足度） 府大会以上の大会出場部数	部活動参加率９８% 文化祭　９８% 体育祭　９４.５% 府大会以上の大会出場部数 延べ２７部	学校教育自己診断による生徒の評価（達成感、満足度） ８０%以上 府大会以上の大会出場部数 延べ２０部以上	目標達成率１００% 目標達成率７０%	部活動参加率９８% 文化祭　９９% 体育祭　９７.０% 府大会以上の大会出場部数 延べ１４部 （陸上、水泳、女子軟式テニス、女子硬式テニス、写真、囲碁）	B	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑥規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組	教員の一致した指導	家庭連絡、保護者との連携、一致した指導を進めた	保護者との連携及び生徒指導部による段階的指導の継続	教員の一致した指導を行った	家庭連絡、面談等による保護者との連携、SCとの連携などを通して指導を進めた	B	遅刻者数	遅刻者数　１７８０	遅刻者数　１５００以下	１９２８	年度末 1年　266 2年　863 3年　799 合計1928	C	継続	高い志を育むための取組みにおいては、心に灯をつける多くの取組みが継続されていることは評価できる。夢ナビやキャンパスツアーの人数が減少している要因を分析し、こういった取組みに参加した生徒がどういう影響を受け、進路につなげたかを追跡することも考えてもらいたい。 遅刻指導についても増加の要因を分析するとともに、指標の見直しも検討すること。	AA
		⑦高い志を育む	継続	国公立大学への キャンパスツアー 卒業生による講演会 リーダー講習会 地域清掃等ボランティア活動 灯ぴプロジェクト	キャンパスツアー参加者数 講演会の回数 講習会の参加者数 地域清掃活動の回数 灯ぴプロジェクト参加者数	１・２年　夢ナビ参加者　３１４名 キャンパスツアー　参加者　９４名 卒業生による講演会実施　満足度９１% リーダー講習会参加者　７１名 **灯ぴプロジェクト発表会開催** **発表者24名　参加者700名** **PTAと連携した地域清掃の実施　２回**	１・２年夢ナビ参加者３００名以上 キャンパスツアー参加者１００名以上 リーダー講習会参加者　６５名以上 PTAと連携した地域清掃の実施　２回以上	夢ナビ達成率８９% キャンパスツアー達成率６７%	１・２年　夢ナビ参加者　２６８名 キャンパスツアー　６７名 卒業生による講演会実施 満足度８６．４% 灯ぴプロジェクト　参加者３８名 発表者　オーラル　５名 ポスター３３名 PTAと連携した地域清掃実施　２回	B	アンケートによる生徒の評価（肯定的意見）	夢ナビ　８４.７% キャンパスツアー参加満足度 ９３.６%	夢ナビ　８５.０% キャンパスツアー参加満足度 ９４.０%	夢ナビ目標達成率９４% キャンパスツアー目標達成率１００%	夢ナビ　８０.０% キャンパスツアー 満足度１００% 灯ぴプロジェクト　参加生徒 この取り組みは他の人にも勧めたい　９５% 全体 その仕事の内容がよくわかった　９６% PTAと連携した地域清掃実施 ２回済	B	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発	⑧授業力の向上	継続	校内における研究授業の実施 授業の相互参観	研究授業の回数 相互参観の教員参加率	５教科＋家庭科で実施 公開数　１４ 参加数　１１８ 参観参加率　６９.９%	各教科１回以上の実施 全教員による授業参観参加	参加率７０.８%	国・数・英・理・音・体で実施 公開数１２　参加者数５１ 参観参加率　７０.８% １０月末から１１月上旬に授業相互見学週間の実施	B	授業評価による授業理解度	1年　82.1　81.7 2年　84.4　84.6 3年　86.8　90.0	1年　80%以上 2年　82%以上 3年　85%以上	目標達成率１００%	第一回目　第二回目 1年　84.1　86.4 2年　81.2　83.7 3年　87.4　89.5	A	継続	研究授業や相互参観がより活発になるように仕掛けを工夫をすること。 授業理解度は全学年第２回で向上しており、第１回の結果の振り返りができていると考えられる。	A
		⑨授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	民間教育産業等主催の研修への参加者数 延べ３２名	３０名以上（教員数の約半分）	６８名	のべ６８名	A	授業評価による授業理解度	1年　82.1　81.7 2年　84.4　84.6 3年　86.8　90.0	1年　80%以上 2年　82%以上 3年　85%以上	目標達成率１００%	第一回目　第二回目 1年　84.1　86.4 2年　81.2　83.7 3年　87.4　89.5	A	継続		
共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬１０校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験の結果では、５教科７科目受験者の割合が、前年度実績および目標値を大きく下回っており、改善が必要である。 全国平均の１１０%以上の割合については、目標および前年度実績を上回っており、評価できる。	B
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 ５教科７科目受験者の割合	７５.６%	８０%	７０%		B	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									大学入試センター試験の５教科７科目の受験者の得点が全国平均（９００点満点）の１１０%以上の割合	４５%	６０%	６３%		A	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									アンケートによる生徒の評価（２年の発表を見た１年の満足度）	９２.０%	９０%以上	８１%	本年度は探究活動に関して事前・事後の満足度について、その伸び率を調べた。 １５項目 事前　平均　６７% 事後　平均　８１%	B	継続	学年全員による課題研究の成果と課題を洗い出すとともに、生徒アンケートの評価が前年度実績および目標値を大きく下回っている点についても、要因を分析し、改善にいかしていただきたい。 課題研究を生かしたコンテストや科学技術コンテスト等の参加者数・入賞者数が目標値を大きく下回っており、参加を促す仕掛けつくりが必須である。	B
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									科学系オリンピック・コンテスト等の参加者数	４０名	７５名	５９名		B	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									GTECを利用しての英語運用能力向上 英語集中講座の実施	1年Ａ２レベル以上 95%　345名 平均点　603/980　62% 集中講座参加者　12名	2年終了時にほぼ全ての生徒がＡ２レベルを取得 かつ平均点65%以上 英語集中講座参加者数 ２５%増	GTECの目標は達成	1年Ａ２レベル以上　９９%　３５７名 平均点　852/1280　67% ２年Ａ２レベル以上　９７%　３４４名 平均点　860/1280　67% 集中講座参加予定者　１２名 コロナ関係で実施できず	A	継続	ＳＳＨの成果発表会において、英語でオーラル発表するなどの取組みは評価できる。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	６０名	７０名	６９名		B	継続	スーパーグローバル大学（タイプＡトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、目標をわずかに下回ったものの、前年度実績より上回った。進路希望達成率と国公立大学現役進学者数は前年度実績および目標値より上回っており、評価できる。要因を分析し、今後の指導に生かしていただきたい。	AA
		⑳進学実績									進路希望達成率	６３.２%	６５%	７４%		A	継続		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	１１４名	１２０名	１３１名		A	継続		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	０名	１名	０名		B	継続		

総合評価	自らの高校だけでなく、GLHS全体を見据えて将来像を含めた学校マネジメントができており、自己評価は高くないが大変評価できる。学業と部活動の両立など、生徒にとっての永遠のテーマを社会との関わり方やセルフマネジメントさせることで解消しようとしていることにも着目したい。進路希望達成率と国公立大学現役進学者数は前年度実績および目標値より上回っており、生徒の心に訴える「灯プロジェクト」などが効果を上げているのであろう。１００周年を迎え、伝統の継続とさらなる進化を期待する。	A

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A･･･計画以上 B･･･おおむね計画通り C･･･計画以下	評価審議会評価の基準	AAA ･･･きわめて高い成果をあげている AA ･･･高い成果をあげている A ･･･成果をあげている B ･･･取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ･･･取組の見直しが必要である

資料2-7

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組 Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	１．基礎学力及び自学自習力の向上	充実	①隔週土曜授業の実施 ②三丘エクセレンス、三丘スタディーハードの充実 ③成績不振者講習の実施（１・２年生）	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数（実施教科）	・15回 ・91回246回 ・82回	・15回 ・50回、200回以上 ・年間60回以上	・15回 ・93回、358回実施 ・70回実施	・土曜授業実施で単位数を確保 ・発展的な内容などの講習を実施 ・定期考査間に成績不振者講習を実施して基礎学力の向上を図っている	A	・アンケートや感想 ・１，２年生での自学自習を２時間以上行う生徒の割合 ・補充講習への出席率	・56% ・1年54%、2年45% ・100%	・肯定的意見60%以上 ・５０%以上 ・１００%	・63% ・1年48% 2年52% ・100%	・土曜授業は、土曜日の学習時間の確保にもつながっている ・成績不振者へも丁寧にフォローを行っている。	A	充実	自学自習を２時間以上行う生徒の割合については、１年が前年度実績および目標値を下回り、２年生が前年度実績や目標値を上回っている。生徒の時間の使い方を把握しながら、中長期的に評価していく必要がある。 読書にかかる取組みでは、新しい取組みを行うなどが読書量増加につながっていると考えられ評価できる。 ＳＧＨの後継ＳＧＰとＳＳＨの取組みにより課題研究が充実している。その強みを生かして複合領域についても積極的に推奨してもらいたい。 英語の授業内で、課題研究の問いの形成にも資する取組みもされていることは評価できる。	A
		２．読解力リテラシー育成	継続	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導（１、２年全員）	・図書だよりを5回発行 ・読書記録を11回提出	・年間３回 ・学期提出 ・年間３回以上	・６回発行 ・４回提出	・「図書だより」を発行 ・毎月１回読書記録を提出させて日常的な読書を推奨し、感想文を提出させ点検	A	・読書記録提出による自主読書量	・1年14冊 ・2年9冊	・１，２年間5作品以上	・１年14作品2年10作品+ブックトーク	読書量を増加させ、文章力育成に繋がっている。新しい試みとして、ブックトークを行った。	A	継続		
		３．科学的リテラシー、ICT活用力及び課題解決能力を育む	充実	⑥「課題研究（CS研究）」などの充実 ⑦プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究Ⅰ・Ⅱの充実 ・校内外での発表会等でのプレゼン	・8回 ・文理学科1,2年毎週実施 ・24回 CS2回、SSH9回、SGH13回	・10回 ・毎週継続実施 ・のべ年間１００回	・19回訪問 ・毎週継続実施 ・24回実施	・東大１０、京大１４回、阪大４回訪問 ・１年で課題研究基礎、２年テーマ研究 ・CSⅡ２回、SSH関係１０回、SGP関係１２回	A	・「課題研究(CS探究）」の延べ発表班数 ・実施後のアンケートや感想	・150回 ・88%	・口頭及びポスター発表100回以上 ・肯定的感想・意見が80%以上	・152回 ・93%	様々な発表の機会や課題研究によって、生徒の問題意識の深化や発表技術の向上が見られる。	A	充実		
		４．英語運用能力の育成	継続	⑧４技能統合型授業の実施 ⑨英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・授業として1,2年に毎週実施 ・理系４回、文系３回、GTEC対策11回実施	・１，２年毎週実施 ・文系・理系のべ１０回	・１，２年毎週実施 ・１３回実施	・１年総合英語Ｔ、２年異文化理解で全員に対して実施 ・NASA３回、SGP関係６回、４技能型４回	A	・アンケートや感想 ・各種４技能型英語外部テストの受験者数 ・特別レッスン参加者数	・84% ・GTEC675人、英検115人、TOEIC2人、TOEFLIBT12人 ・GTEC対策延べ91人、海外研修延べ251人	・肯定的意見80%以上 ・GTEC1，2年全員受験 ・延べ70人	・83.8% ・640人受験 ・97人	大学入試制度の見送りがあったが、4技能型授業の必要性を踏まえて今後も継続して4技能型授業を行っていく。	A	継続		
	Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を はぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力	５．違いを認め共に生きる力の育成（異文化・国際理解）	継続	⑩海外スタディ・ツアー等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・スタディツアー参加人数 ・交流・留学受け入れ人数	・107人＋2年全員台湾修学旅行 ・105人来校交流	・100人 ・70人	・126人 +2年全員 ・105人	・NASA･FIT26人、ﾘｰﾊｲ大学国連30人、ﾌｨﾘﾋﾟﾝ25人、ｵｰｽﾄﾗﾘｱ45人、2年修学旅行 ・3校受入れ　台湾成功高級中学32人、建国高級中学30人、韓国慶山高校36人、ｱｾｱﾝ学生7人	A	・アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	・100%	・ 肯定的評価100%	・ 肯定的評価100%	海外の生徒との交流や4技能型授業や課題研究の成果として、海外進学への関心が高まってきている。	A	継続	海外研修により本物に触れることの感動や海外の生徒との交流により海外進学への関心が高まることなど、アンケート等にあらわれている。 防災訓練では、働き方改革を踏まえ見直しを行うなどスクラップも意識しており、持続可能な方法を模索する姿勢は評価できる。	A
		６．違いを認め共に生きる力の育成（ボランティア活動 ・地域交流活動）	継続	⑫地域ボランティア活動への参加	・幼稚園や小学校等の世代間交流(防災宿泊訓練含む）の参加人数 ・地域中学校と連携した科学教室の実施	・67人 ・104人	・４０人 ・のべ100人	・６２人 ・１１０人	・幼稚園交流20人、防災宿泊体験訓練42人　防災宿泊体験訓練では高校生が小中学生をエスコートした。 ・科学教室１１０人　科学教室では高校生が中学生を指導	A	・アンケートや感想による生徒の評価（防災宿泊訓練・幼稚園ボランティア） ・アンケートや感想による参加者の評価（三国丘科学教室）	・100% ・昨年より8人増加	・肯定的感想が80%以上 ・参加者の肯定的意見８０%以上 ・参加者の増加	・肯定的感想が100% ・肯定的感想100% ・昨年より6人増加	学ぶ喜びとともに、学んだことを伝えて指導する体験は、自らの学ぶ姿勢に重要な役割を果たしている。	A	継続		
		７．健康・体力・協調性と豊かな感性の育成	継続	⑬部活動の振興 ⑭学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事（文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会）実施	・96% ・無事故で実施	・ 95% ・内容充実	・94.4% ・文化祭、体育祭等無事故で実施	・1,2年で94.4% ・各行事は、生徒会が中心となり実施。文化祭は、演劇や開会式等で内容を充実した。行事は、全て安全に無事故で実施できた。	B	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出場件数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・近畿大会16件 ・肯定的感想が大半	・ 5件 ・肯定的評価９０%	・近畿大会12件 ・肯定的感想が大半	学習面のみならず、文武両道を目標に部活動等でも多角的に活躍している。	A	継続		
	Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	８．高い志を育み進路実現を果たす	充実	⑮社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や各種研究講演会の実施・充実 ⑯東京方面キャンパスツアーの実施 ⑰大学見学の実施 ⑱医療インターンシップの実施	・講座（講演）の開催回数 ・参加人数	・47回 ・13人 ・272人 ・55人	・ 25回 ・20人 ・４５０人 ・５０人	・43回実施 ・17人 ・640人 ・53人	・三丘セミナー12回、大学での講演15回、進路関係11回、その他5回 ・東大、早稲田大見学 ・1年京大見学全員、2年京大阪大見学全員 ・医療系4か所訪問、阪大医学部12名	A	・難関国公立大学（10大学）への進学者数 (東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大) ・大学医学部医学科進学者数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・161人 （現役105人） ・10人 ・100%	・150人以上（現役100人以上） ・10人以上 ・肯定的意見80%以上	・156人 （現役101人） ・6人 ・100%	高い志をもち、目標をさげず最後まで粘り強く頑張っている。	B	充実	遅刻数については目標を下回っているものの前年度より増加している。生徒の事情も聞き取りながら、引き続き丁寧に対応していってもらいたい。	AA
		９．規範意識の醸成	継続	⑲遅刻指導の徹底 ⑳朝のあいさつの奨励 ㉑リーダーズ研修の実施	・教員による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間１２回の実施	・日常実施 ・13回実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間１２回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・１２回の実施	・校門指導や登校指導を校長、教頭、担任等で日常的に実施 ・ｽﾎﾟｰﾂﾘｰﾀﾞｰｽﾞｾﾐﾅｰ1回、救急法講習会1回、ｷｬﾌﾞﾃﾝ会議10回	B	・ 1日1クラスあたりの遅刻人数	・0.25人 (1,211件)	・0.5人未満	・0.45人 (2168件)	昨年より増加している。悩みを抱えた生徒の増加も要因であるが、今後も指導を継続していく。	B	継続		
	Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	１０．授業力向上	継続	㉓授業改善に向けての取り組み ㉔授業観察によるフィードバック ㉕保護者への授業公開の実施 ㉖公開研究授業及び研究協議の実施 ㉗アクティブラーニングＩＣＴ機器活用授業の研究 ㉘他校で実施される研究授業への積極的参加 ㉙民間教育産業等との連携によるスキルアップ研修参加	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間３回実施 ・年間４回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・参加人数 ・参加人数	・全教員提出 ・全員にフィードバック ・3回 ・3回 ・3回 ・他校や予備校等に77名参加	・全教員提出 ・全員フィードバック ・年間３回実施 ・年間４回実施 ・研修４回 見学実施講座10講座 ・他校や予備校等に50名以上参加	・２回全教員提出 ・全員フィードバック ・3回実施 ・3回実施 ・1回実施 ・他校や予備校等に58名参加	個々人が改善に取り組むのは勿論、科目、教科単位、学年などでも討議して全体として授業力向上に取り組んでいる。	B	・授業アンケートによる授業満足度	・85.2%	・80%以上	・86.8%	授業の相互見学や改善への取り組みが活発に行われることにより、授業力の向上を期待している。	A	継続	授業改善に資する研修は多く、授業アンケートの満足度も前年度実績および目標値を上回っている。実績を踏まえて目標を見直すことも検討いただきたい。 ＩＣＴに関して、定時制と合同で研修するといった取組みは、成果普及の面からも評価できる。今後は拠点として、他校教員も参加できるような研修も企画いただきたい。	AA
		１１．進路指導力向上	充実	㉚新旧３年担任を中心とした進学指導研修の実施 ㉛各学年業者模試実施後の研修実施 ㉜センター試験分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・1回実施 ・4回実施 ・1回実施	・ 年間１回 ・ 年間３回 ・ 年間１	・1回実施 ・6回実施 ・1回実施	担任の進路スキルの向上を図るために各種分析報告会や研修を実施	A	・難関国公立大学（10大学）への進学者数 (東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大) ・大学医学部医学科進学者数	・161人 （現役105人） ・10人	・ 150人以上（現役100人以上） ・10人以上	・156人 （現役101人） ・６人	高い志をもち、目標をさげず最後まで粘り強く頑張っている。	B	充実		
		１２．初任者・転入者に対する指導力向上支援	継続	㉝校内研修の実施	・研修実施回数	・11回	・10回	・12回実施	・新着任研修1回、三究会5回、進学説明会への参加2回など	A	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上	-1.6%	・授業アンケート肯定的回答率１%以上の向上	+2.3%	第1回目から2回目は大幅に増加。本校での指導に合わせて授業改善を行ってくれた結果が表れている。	A	継続		
共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験について、5教科7科目受験者の割合が、前年度実績および目標値を上回っていることは評価できる。一方、得点率8割以上の者の割合は前年度実績より半減しており、要因を分析し、今後の指導に生かしてもらいたい。	AAA
		⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	86.8%	85%	88%		A	継続		
		⑮大学入試センター試験の結果									5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	32.2%	30%	16%		C	継続		
	Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									校外での研究発表グループ数	26グループ	30グループ	43グループ	・SSH関係19班、SGP関係23班（うち海外発表　ﾘｰﾊｲ大学にて6班、ﾌｨﾘﾋﾟﾝｴﾝﾄﾞﾗﾝ大学にて6班）、GLHS1班	A	継続	校外での研究発表グループ数および府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数について、ともに前年度実績および目標値を上回っている。ＳＧＨの後継であるＳＧＰの取組みが効果があったと考えられる。	AA
		⑰コンクール・コンテスト等の成果									府や全国規模のコンクール・コンテスト等の受賞者数	28人	３０人	36人	・科学オリンピック　物理チャレンジ2人、情報2人、SGP32人	A	継続		
	Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									GTECスコア（１，２年全員受検）	Grade7:　9人 Grade6:　61人 Grade5:306人	Grade7:　5人 Grade6:　25人 Grade5:200人	CEFR B2 7人 B1 163人 A2 451人		A	充実	英語４技能の育成が大学に入って生きてきているという卒業生の声は、英語教育の質の確かさの証であり、評価できる。	AA
	Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	82人	90人	110人		A	充実	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は前年度実績および目標を上回っている。また、難関国公立大学等の全合格者数および国公立大学現役進学者数は前年度実績は下回っているが、目標を達成している。これまでの実績を踏まえて、目標をさらに高く設定し、それを上回るよう努めてもらいたい。 海外大学進学については、これまでも実績もあり、国内大学への進学と同様に引き続き取り組んでもらいたい。	A
		⑳進学実績									難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科）の全合格者数（現役・浪人）	127人	120人	１２６人		B	充実		
		㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	146人	１４０人	145 人		B	充実		
		㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	0人	１人	３人	・英国　セントアンドリュース大　他3大学合格 ・カナダ　カルガリー大合格 ・アメリカ　ｱｰﾗﾑｶﾚｯｼﾞ、ﾉｯｸｽｶﾚｯｼﾞ合格 ・リンデンウッド大出願	A	継続		

総合評価	成果を上げたSGHの後継であるＳＧＰとＳＳＨの取組みにより課題研究が内容と指導体制ともに充実しており、今後はその強みを生かし、複合領域の研究テーマについても積極的に取り組んでもらいたい。働き方改革を踏まえて行事を見直すなど持続可能な方法を模索している点や、スクールカウンセラーの活用など細やかな生徒支援の体制をとっていることなども評価できる。全体にGLHSとしての取組みが高い次元で実践できており、他校にも成果を普及させるなど、今後の展開に期待する。	AA

平成３１年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート　　府立岸和田高等学校

自己評価の基準	A･･･計画以上 B･･･おおむね計画通り C･･･計画以下	評価審議会評価の基準	AAA ･･･きわめて高い成果をあげている AA ･･･高い成果をあげている A ･･･成果をあげている B ･･･取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ･･･取組の見直しが必要である

資料2-10

事業目的	大項目		小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価審議会の評価 評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①・言語活用能力 ・英語運用能力	継続	英語で自己表現。外国人大学生とのグループワーク（英語でのディスカッション&プレゼンテーション）①GL養成プログラム校内版基礎の実施②GL養成プログラム校内版発展の実施③GL養成プログラムUCLA版	・参加者数	①②１２１名,③１０名	①②１２０名以上 ③１０名	①②101名③10名	①②本年度は夏、春の実施。夏は73名が受講。春は28人が申し込み。③英語でのプレゼンやコミュニケーション能力アップの研修をし、ロサンゼルス総領事館や南カリフォルニア大学を訪問し見聞を広げた。	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「英語研修プログラムに満足していますか。」	96.7〜１００%	90%以上	100%	①「プログラムにとても満足した」が69%、「プログラムに満足した」が31%と満足度は計100%。③「プログラムにとても満足した」、「英語に自信がついた」という質問にそれぞれ１００%の生徒が肯定的に回答。	A	継続	GL養成プログラム校内版は海外に行けなくても、英語運用力向上に期待できる。 自学自習の習慣を育成するプロジェクトでは、前年度実績より４ポイント以上下回った要因を分析していただきたい。　スーパークラスの設置については、その必要性や効果について、スーパークラスに入れなかった生徒の意欲面も含めて、丁寧に分析する必要がある。	B
			②・学習習慣の定着 ・基礎学力の向上 ・習熟度別の学力向上	継続	自学自習の習慣の育成プロジェクト ①土曜講習(特進ゼミ)･サポート講習(成績不振者)等②土曜午前の学習への取組支援「1年ｽｰﾊﾟｰ講習」継続　③土曜午後を中心に、ゆうかりホールでの自習	①開講回数 ②参加生徒の数 ③のべ利用生徒数	①１１０回 ②８０人 ③２２６０名	①のべ100回 ②６０名 ③１５００名	①土曜等243回、夏期261回②80名③2234名	①土曜や長期休業中に学習状況や進路希望に応じて多くの講座を開講し、主体的に受講。②希望者144名、選抜により80名が参加。③学校での自習を奨励し、多くの生徒が自習室を利用。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「講習や千亀利セミナーなど、土曜日の午前は充実した学習時間を過ごしている。」	61.2%	５５%以上	56.8%	全学年において土曜の学習を支援し、学校全体としてバランスよく取り組めた。1年生は難関大受験に向けた特別講習「岸高スーパー」を、3年生は、様々な到達目標の講習を多く実施。その他自学自習する環境も整え、生徒の土曜午前の主体的な学びが促進。	A	継続		
			③・ICT活用力 ・科学的リテラシー ・読解力リテラシー	継続	新たな大学入試で求めらる力を育成 ①スーパークラスの円滑運営、学校全体の学習意欲の向上を図る②｢岸和田スタイル｣学年・教科の授業到達目標を設定③朝読タイムの実施④「岸高手帳」でのポートフォリオとｾﾙﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	①参加生徒数　②目標設定・進捗・振り返りの3回の教科会議　③1週当たりの時間数　④取り組み生徒数	①80名②3回　③75分 ④1034人	①80名 ②3回 ③75分 ④1000人	①80名②3回③75分④991人	①スーパークラスに所属する現2年生は定期考査や模試等で成果をあげている。②教科が主体的に目標を設定。スタサポ結果等で課題を確認し、指導改善につなげる。③朝読と国語入試問題の融合。④生徒の自主自立につながった。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「海外研修やSSH関連行事など他校にはない教育活動が準備されている」	87.5%	80%以上	92.1%	京都大学iPS細胞研究所の斎藤教授（本校卒業生）のSSH講演会やサイエンスツアー、ドイツとの相互交流など、行事の一層の充実を図った。また1年生は「朝読」と「現代文」指導との連携を試み、より効果的なものにした。生徒はこれらの活動の記録を「岸高手帳」に記し、進路ホームルームでも活用。	A	継続		
		Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性	継続	①姉妹校「景美女子高級中学」と相互交流　岸和田高校での1日バディ交流(4月)②台湾での交流(修学旅行での1日バディ交流)(10月）③ドイツの高校生とのﾎｰﾑｽﾃｨによる相互交流(9月)④台湾での姉妹校との鳥類の協働調査（7月）	①バディ人数 ②参加人数 ③バディ人数 ④参加人数	①５３名 ②３６０名 ③１３人 ④６名	①５０人 ②３２０人 ③１０名 ④５名	①６８人 ②311人③11人④6名	①4技能を意識した英語の授業の成果が見られ、各場面で英語で交流する場面が見られた。③英語で積極的にコミュニケーションを取っていた。④メジロの亜種の鳴き声のサンプルを採取した。	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「海外研修はいかがでしたか」	87.5〜100%	90%以上	97%〜100%	台湾の姉妹校との相互交流は10年目を迎え、春に受け入れる本校生のホスピタリティーが洗練されてきた。10月訪問の際も、英語を使い、積極的に交流している。ドイツ生徒との交流も定着しつつあり、SSH台湾フィールドワークなど、多様な参加の機会を設けている。	A	継続	海外の姉妹校との相互交流では、課題研究の質の向上や英語運用力向上の面でも効果がうかがえる。 また、地域との交流や部活動では、生徒アンケートからも充実したものとなっていることがうかがえるので、引き続き実施いただきたい。	A
			⑤・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・社会貢献	継続	地域との交流で学ぶサービスラーニング（家庭科のカリキュラムに組み込んで）・社会貢献①岸城幼稚園との1年を通しての授業での交流　②岸高祭や岸高桜祭の生徒主体の運営　③海外からの訪問の受入	①参加生徒数 ②岸高桜祭の参加クラブ数 ③団体数	①３６０人 ②７クラブ ③４団体	①３２０人 ②５クラブ ③４団体	①３５０人 ②８クラブ ③４団体	①授業時間数確保のため２クラスのみの実施。2学期は全クラス実施の予定。②岸高桜祭で近隣住民や中学生に部活動を紹介した。③台湾2回(4月)、ドイツ(11月)、オーストラリア(1月)	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）「学校交流はいかがでしたか」	92.4%	90%以上	92.1%〜100%	近隣の小学校と連携したクッキング教室、幼稚園との交流授業、「岸高桜まつり」、吹奏楽部の訪問演奏会、美術部の絵馬奉納など多岐にわたる地域貢献。また関西国際センターと連携し、海外からゲストを迎えて交流事業を展開。生徒は主体的にかかわりローカルとグローバルの両方の観点から力を発揮。	A	継続		
			⑥健康・体力をはぐくみ、良好な人間関係を構築	継続	クラブ活動の振興と学校行事の充実 ①クラブ活動の活性化　②体育祭の実施　③クラブリーダー研修の実施　④コミュニケーション実践講座の実施	①クラブ加入率 ②体育祭参加率 ③実施回数 ④参加人数	①９６% ②９９% ③２回 ④３２０名	①②は95%以上 ③２回 ④３２０名	①９８% ②９９% ③２回 ④３２０名	①前年度より微増。②生徒の主体性が発揮された。新たな種目も導入。③文武両道をめざすメンタルトレーニング等を専門家を招聘して実施。参加者計402人。④佛教大学原教授による１年生対象の講演。（９月）	A	①アンケート感想によるクラブ満足度「クラブ活動に熱心に参加している。」②行事満足度（肯定的な意見）「学校行事に楽しく参加している。」	①92.4% ②90.7%	80%以上	①94.5% ②94.4%	前年度より実績が向上。陸上・少林寺拳法・演劇など複数のクラブで全国大会や近畿大会に出場。体育祭では、生徒が中心に内容を検討し、運営。また、演劇指導、クラブ員のメンタルトレーニング、コミュニケーションの取り方など、専門家を招いて生徒に直接指導していただいた。	A	継続		
		Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦高い志での進路実現	継続	高い志でのキャリア構想 ①OBOG職業講話・進路講演の実施　②大学教授の出前授業の実施　③PT（東大京大等難関大学向け講座）の実施　④京大・阪大キャンパスツアーへの参加促進	①実施回数②・のべ授業参加数　・講座数③実施回数　④のべ参加人数	①7回,②16講座1360人,③80回,④108名	①７回 ②･1360人 ･20講座 ③７５回 ④８０人	①7回②1266人③80回④104人	①現役合格者や社会人で活躍している先輩たちの体験談を聞き高い志を持たせる。②京大等の教授を招いての出張講義はキャリアデザインの一助となる③毎週の添削指導や講習に参加。定期考査や模試等で成果をあげる。④スーパー講習受講生を中心に参加。	A	アンケートによる生徒の評価（肯定的評価）「将来の進路や職業などについて、講演会や説明会を実施するなど適切な指導を行っている」	89.7%	８０%以上	94.1%	入学当初から、グローバルな視点や次世代型キャリア教育をめざし、多方面にわたる進路説明会や講演会を実施。また、海外大学も選択肢の１つと考え、校内で海外大学説明会を開催。大学からの出張講義をしていただいた先生の研究室訪問も行い、生徒には進路実現に具体的な目標を持つきっかけとなった。	A	継続	ＳＳＨの取組みも含め、講演会など進路説明会など、生徒が進路を考える機会は充実している。生徒のアンケートからも充実していることがうかがえる。 グローバルな広い視野の構築とマインドセットでは、本年度から実施のWWL事業とうまく組み合わせており、評価できる。	A
			⑧・規範意識 ・主体性の育成 ・協働性	継続	自他の気持ちを尊重する心の涵養と規律規範の確立①合唱コンクール(1年2年)芸能祭演劇(3年)　②生徒による朝の挨拶運動の実施　③校外登校マナー指導の実施	①参加クラス数 ②③実施回数	①合18クラス　芸8クラス②30回 ③94回	①合18クラス芸8クラス ②年30回 ③年60回以上	①合18クラス芸8クラス ②32回 ③70回	①短期間で集中し充実感・達成感のある行事。練習やピアノ伴奏、指揮等も生徒で決定し、行う。②教員と自治会執行部員等が毎週金曜日実施。③生指中心の取り組みに加えて学期に1回全教員で強化指導週間を実施。	A	アンケートや感想による①生徒「文化祭などの学校行事に楽しく参加している」②保護者の評価（肯定的な意見）「社会人としてのモラルを守る生徒を育てようとしている。」	①90.7% ②90.9%	85%以上	①94.4% ②87.8%	生活指導部が中心となって「カッコいい大人への成長」を合言葉に、朝の挨拶運動などを自治会執行部とともに実施。この活動が学校全体に浸透し、保護者にも伝わっている。学校行事は時期や内容を中心に昨年度見直したものを継続し、生徒も意欲的に参加。	A	継続		
			⑨・高い志 ・社会貢献	継続	グローバルな広い視野の構築とマインドセット ①GLHS講演会の実施　②サイエンスツアーの実施③姉妹校との台湾フィールドワークの実施	①実施の時期（4月当初） ②のべ参加人数 ③参加人数(両校の合計）	①４月 ②３３人 ③３６人	①４月当初 ②４０人 ③１０人	①１０月 ②４０名 ③３６人	①コミュニケーション講座、WWL事業により世界の健康を見守る講演他。②夏季ツアーではスーパーカミオカンデや飛騨天文台、春季ツアーでは筑波宇宙センターと農研機構を訪問。③台湾研修時に姉妹校生徒とメジロの音声収録・解析のワークショップを実施。	A	アンケートや感想による満足度（肯定的な意見）「今回のプログラムはいかがでしたか。」	96.0%	90%以上	100%	コミュニケーション講座、血流と健康の講演（WWL関係）等、グローバルな視点のさまざまなプログラムを提供し、感想文での満足度は100%。生徒に次世代の課題に立ち向かえる姿勢、視点を示すことができた。	A	継続		
		Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩授業力向上	継続	①公開授業週間の設定 ②生徒による授業評価実施 ③ICT機器の活用とAL型授業の導入 ④AL型授業実践＆研究協議研修の実施	①教科毎に1週間 ②実施回数 ③活用教員数 ④実施回数	①教科ごとに１週間 ②２回 ③６３名 ④２回	①教科ごとに１週間 ②２回 ③計６３名 ④２回	①教科毎に1週間②2回③63名④2回	①相互見学公開週間を教科別に設定。授業改善に役立てている。校外への公開について、今年度は私立高校や中学校にも公開し、多数参加。②③各教員が自己申告票で数値目標を設定。④岡本尚也先生の課題研究研修(6月)AL型公開授業で京大石井准教授の指導(11月)。	A	授業満足度（授業アンケート） ・「授業に満足している。」項目３〜７・「知識や技能が身についた」項目９	・3.26 ・3.19 （4点満点）	・3.20以上,・3.10以上（4点満点）	・3.33 ・3.30 （4点満点）	主体的対話的で深い学び（AL型）である「課題研究で培ったノウハウを全教科に広げる」を第2期SSHの目標の１つにしてきた。教員が年2回の研修に熱心に参加し、そこで得たものを実践した。授業アンケートの項目「知識や技能が身に付いた」は、昨年3.30で、授業満足度が上昇。	A	継続	授業改善では、アクティブラーニング型授業が浸透してきており、生徒間の対話も多い。 課題研究では、これまでの教材開発の成果もあり、１年から３年までの系統だった指導ができていることは評価できる。 今後は、他校教員も巻き込んだ研修を実施するなど、地域の指導力向上拠点としての役割も果たしていただきたい。	A
			⑪課題研究の教材開発・指導法の開発	継続	①2年文理課題研究発表会の実施 ②3年キャリアスタートゼミでの論文作成 ③1年セレンデピティ（課題研究基礎）ノートの作成 ④ルーブリック評価の作成	①発表本数・口頭発表本数・ポスター発表数 ②論文本数　③プリント教材の枚数 ④生徒への提示回数	①ポスター106本 ②100本 ③17枚 ④1回	①口頭9本、ポスター100本 ②80本 ④20 ③3回以上	①口頭11本ポスポスター186本 ②96本 ③10枚 ④6回	①ポスター発表を通してリサーチ力とプレゼン力向上。②課題研究活動をまとめ論文を作成。③課題研究のノウハウを伝えるためにプリント教材を利用。④ルーブリックを用いて評価基準を生徒と教員が共有。	A	文理課題発表会などの発表や課題研究の達成感 SSHアンケート（アンケートの肯定的な意見）「さまざまな調査法等が身についた」	75.0%	75%以上	75.1%	課題研究に関する調査で、「様々な調査方法等が身についた」「基礎的知識が身についた」「観察力が身についた」「分析力が身についた」「課題設定力が身についた」「課題解決力が身についた」「表現力が身についた」に肯定的に答えた生徒の平均が75.1%であった。	B	継続		
			⑫初任者等経験の浅い教員の指導力向上	継続	①経験の浅い教員向け校内研修の実施　②経験10年目の教員の企画による初任者と経験2〜9年の教員の交流研修の実施　③模試分析会で教科別グループワーク実施、現状の課題と今後の授業内容検討	①②③実施の回数	①9回 ②2回 ③10回	①年間9回 ②年間2回 ③年間9回	①9回 ②2回 ③9回	①指導教諭、10年目の教諭をファシリテーターとして初任者研修や教員研修を行う。②生徒指導の現認等について研修。③学年別に模試作成側から教育アドバイザーを迎えて学年担当者と意見交換と今後生徒の学力を伸ばす方法についてグループワーク。	A	アンケートや感想による教員の評価 ・「本研修で知識は広がりましたか。」授業アンケート　授業計画項目４・「毎時間授業の目標や大切なポイントを説明してくれる」	・100% ・3.30	・75%以上,・3.20以上	・100% ・3.35	10年目研修の教員がメンターとして、初任者を指導し、併せて教員研修を企画した。京都大学から講師を招きAL型授業について訪問指導をうけた。校長のリーダーシップのもと学校全体が活性化し、生徒からの評価はさらに向上した。校長が日々の取り組みをブログに掲載。	A	継続		
	共通の取組	Ⅴ．総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果	評価審議会資料３に明記						大学入試センター試験5教科7科目受験者の割合は目標にわずかに達しなかったものの前年度実績からは改善している。 得点率80%以上の受験者の割合は前年度実績より大幅に下回っており、改善が必要である。また、より高みをめざし、目標の設定を見直す必要があると考える。	A
			⑭大学入試センター試験への参加									大学入試センター試験 5教科7科目受験者の割合	249名 70.5%	240名 75%	265 74.4%	センター試験時点での在籍数356名に対し、大学入試センター試験5教科7科目受験者は265名だった。	A	継続		
			⑮大学入試センター試験の結果									大学入試センター試験の 5教科7科目の得点率80%以上の受験者数（割合）	49名 13.9%	32名 9.3%	26名 7.3%	センター試験時点での在籍数353名に対し、大学入試センター試験の5教科7科目の得点率80%以上の受験者数は26名だった。	B	継続		
		Ⅵ．課題研究活動	⑯課題研究活動									ルーブリックを用いた観点別評価を行い、研究活動の質の向上と、適正な評価を行う。	100%	８０%以上	100%	2年生全クラスで課題研究を実施し、すべての講座でルーブリックを用いた観点別評価を行った。口頭発表時やポスター発表での留意点に生徒間の評価を活用しており、プレゼンの技能も向上した。	A	継続	ルーブリックをどの講座でも活用することは有用であるが、ルーブリックの枠にとらわれすぎないことも重要である。 コンテスト等の参加者数については、前年度実績より大きく上回っており評価できるが、実績を踏まえた目標値の設定をしていただきたい。	AA
			⑰コンクール・コンテスト等の成果									全国規模のコンクール・コンテスト等の参加者人数	134人	30名以上	200名	SSH生徒研究発表会、全国学生・生徒文芸コンクール小説ＰＯＰ部門（入賞１名）、現代学生百人一首（入選２名）、あなたのおすすめ本のPOP広場（優良賞１名）、東京理科大坊ちゃん科学賞入賞、大阪府学生科学賞最優秀賞（大阪知事賞）、日本動物学会優秀賞他、全校的にSSH事業に取り組んだ成果が出ている。	A	継続		
		Ⅶ．英語運用能力	⑱英語外部検定試験									英語外部検定試験（G-TEC,英検）の目標達成割合	・「A2」96%・準2級73%,2級62%	・CEFR「A2」以上が80%・英検準2級合格率80%、2級60%	・「A2」99% ・準２級65%,2級53%	・1、2年生が12月にGTEC４技能型を受験し。受験者627名中619名がA2以上のスコアを獲得した。 ・英検（希望者受験）は準２級を３１名が受験し20名が合格、２級を57名が受験し30名が合格した。	A	継続	グローバルリーダー養成プログラムは校内版と海外版があり、海外へ行けなくても、英語運用力向上に有用と考えられる。	AA
		Ⅷ．進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（１浪含む）	46名	47名	37名	北海道大1名、名古屋大1名、大阪大15名、京都大1名、筑波大1名、広島大5名、早稲田大1名、神戸大8名、静岡大2名、岡山大2名	B	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、前年度実績および目標値を大きく下回っており、要因を分析し、改善が必要である。 また、国公立大学現役進学者数は、前年度実績および目標値を上回っているが、目標はさらに高く設定し、その達成に向けて取り組んでいただきたい。 海外大学への進学は、GL養成プログラムなどの取組みの成果として評価できる。	B
			⑳進学実績									国公立大学&主要私大（早稲田・慶応・上智・東京理科大・MARCH・関関同立・同女・薬学部・歯学部・医学部）現役進学者数	207名	187名	221名	下記の国公立大に加え、私立大で青山学院大1名、同志社大11名、立命館大7名、関西学院大15名、関西大43名、私立大薬学部13名　など	A	継続		
			㉑国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	125名	107名	129名	京都大1名、大阪大13名、神戸大5名、北海道大1名、大阪市立大15名、大阪府立大14名　など	A	継続		
			㉒海外大学への進学									海外大学進学者数（１浪含む）	1名	1名以上	1名	University of Wisconsin Superior（アメリカ）	A	継続		

総合評価	恵まれた教育環境のもと、高い志をはぐくみ文武両道を貫く実践が展開されている。授業改善では、主体的・対話的で深い学びをめざした授業が浸透してきており、課題研究では、これまで開発してきた教材を活用し、１年から３年までの系統だった指導ができていることなどが評価できる。スーパークラスを設置するなどの工夫もみられるが、短期的な取組でなく中長期にわたっての育成についてビジョンを示すことも必要であろう。これからの展開を期待する。	A